

昭和 2 年

大阪朝日新聞大和版昭和2年

・1月8日

法隆寺裏の森林を整理 寺有林一帯に植林して水源に  
法隆寺聖徳太子奉讃会の事業として中尾県林業技師に囑託して目下基礎調査中の水源林面積の実測を急いでいるが、法隆寺裏にみえる森林六十余町歩（平群谷の分水嶺まで）は従来放任して何ら営林手当が施されていないので、県林務課ではこれを整理する大計画が立てられた、右によると十数年前から砂防方法として植えられた小雑木はその目的が完成したので全部水源、風致、収益を兼ねた新森林にかへるためこれを順次伐採して有用樹木たる松、桧に植かへ、現在多数に出ている檜の芽ばえだけは地力保護のため下木として保存するはずである、松と桧は苗木から植林するのであるが、寺地に余裕あれば寺内で苗圃を作りたい希望らしい、この結果今まで何ら専門的の造林知識なく大木を伐採したり、たまに植林しても手当が行きとどかぬため枯死してみにくい林相をしていた寺有林一帯が十数年後には全山美林と化し、防水水道の水源地を利する一方、風致も一躍して美しい斑鳩寺域を形成することとなる、なほ右寺林に続いた国有林の経営については本省の方へ相当注文をつけて寺域に相応するやうな施設を要求するはず

・1月12日

梅の満開期を地区別に紹介 宣伝法を改める名勝月瀬梅林

・1月12日

吉鉄延長 工事にかゝる 花どきまでには完成予定  
十日地鎮祭を行った吉野鉄道延長工事はいよいよ昨十一日から着工した、起点は吉野、終点で吉野山登山の便をはかるべく一目千本まで二哩半の延長で今春の花期までに完成予定である

\*開通したのは昭和3年3月

・1月14日

県史跡名勝調査委員会 十九日開く

不景気で木材停滯 貯木場だけで収容しきれぬ

長谷寺の仏名会

興福寺の文殊会 本年は早めて二十四五両日

・昭和2年1月14日 大阪朝日新聞大和版

春日山中の名木に避雷針を設ける 日本ではじめての試み春日山中の名木に避雷針を

・1月16日 大阪朝日新聞大和版

春日野グラウンドに選手控室を建てる 医務室や浴場など完備した木造だて

・昭和2年1月16日 大阪朝日新聞

県営造林地のまき狩り 猪鹿兎が苗圃をあらすので

県営造林地吉野郡上北山村と十津川村地内には、猿、牡鹿、兎など多数棲息し新植の樹苗、成長遅延の稜線、尾根通りの植栽樹および苗圃を荒し、これがため致命的な損害を蒙っているので十五日から四月十日までの間銃器、罾を用ひて大巻狩をすることとなった

・1月19日

福寿草の栽培は最もよい副業 東山中や宇陀吉野は栽培地として適する

元日草、福神草、長春草、福德草と縁起のよい別名を持っている福寿草栽培を県下山間部の副業にしたらいふものがある、無論普通の品種では思ったほど収入もあるまいが変ったものだとそれだけ園芸的になって園芸的知識を要するであらうが、京阪神といふ大都市を近所にもつわが大和にはかういふものを栽培し売出すには適当ではあるまいかといふのである、東山中から宇陀、吉野方面は寒地であり栽培地とするに不適ではないらしい、福寿草の本邦産品種につき綾野県農試技手の談に

武州青梅産のものは花卉が淡黄色の受咲きとなっていて上品でありこれを包むの色も濃紫でなかなか美しく、他産のものとは別種の特徴があって非常に珍重される、佐渡の産は色が淡黄ですこぶる鮮麗であり、信州産は少し赤味を持ってはいるが青梅産のやうに紫色でなく、花の色も上品でない、秩父産の花は濃黄色茎も太く肥えているから勢も旺んであり、一見なかなか立派ではあるが花はあまり上品とはいへない、しかし産額が多いから縁日ものとして多量に売出されている、そのほか加賀の白山から出るものには浅黄色の大輪があり、北海道産のものは色が濃厚すぎてかへって品位に乏しい、産地によってこんな風に変っているがまた栽培家によっても人工的に花の色、形、葉の変態などいろいろな変種を出すやうになっていて、今ではなかなか面白い逸品を観ることが出来るやうになっている

・1月26日

浅茅ヶ原の梅のたより

奈良公園浅茅ヶ原片岡に早くも春のたよりが訪れて梅花の蕾がほぐれはじめた、本年は施肥の効みえて蕾はなはだ多く、ことに前年増植したのも咲くべくになっているから満開の美しさが思ひやられる

・1月26日

トントはけぬ 新宮の木材界 漸落歩調をたどり昨今の滞材五万尺メ  
=労銀値下げ問題擡頭=

・1月27日 大阪朝日新聞大和版

御本丸御用で 片栗の専売権

伊勢大廟の薬草とも深い関係 森野薬園の面白い歴史

・1月29日

蠶（以下蚕とする）種が足らぬ 県蚕業取締所下市支所管内

県蚕業取締所下市支所管内における本年度(大正十五年昭和元年)の蚕種製造額は百十五万五千三百七十蛾（四万四百五十一枚）でその内訳は

原蚕種一万九千七百四十蛾△普通蚕種（春蚕種）二十六万一千九百六十八蛾△冷蚕種（夏秋蚕用）二万七千四百十二蛾△不越年種（秋蚕用）八十六万五千九百九十蛾

となってをり、主として同支部管内たる吉野、宇智、南葛城各郡に掃立てられるが、十五年度における同地方の掃立は七万一千七百十二枚で、同支所の生産蚕種では非常な不足を来し他府県から供給をあふいでいる状態である

・昭和2年1月29日 大阪朝日新聞大和版

福寿草の栽培は 最もよい副業

東山中や宇陀吉野は 栽培地として適する

・1月29日

三笠の山焼 紀元節に執行

・昭和2年1月30日 大阪朝日新聞大和版

伐採はせぬ 龍門の妹山

妹背山の浄るりで名高い吉野郡龍門村大字河原屋の妹山の美林五町七段九畝余歩は地元から上地され内務省の所管に帰したのちに大蔵省の雑種財産となったものであるが、財源を作るためこれを伐採してはとの説が本省筋で持ち上がったことをきいた、妹山隣接の郷社大名持神社では萬一伐採された時は境内の風致を根本からくつがへされるとて、縁故をもって無償払下げをされるか、または保存法により将来を保證されるか二つに一つの方法を講ぜられたい旨県あて請願書を提出していたが、このほど大蔵省の意向でとりあえず伐採はせぬことになった模様である

・2月1日

植村佐平治の子孫が生存 薬草園の事情が一層判明するか

さきに県史蹟調査会囑託上田三平氏によって発見された宇陀郡松山町森野旧薬園主から伊勢

・2月3日 大阪朝日新聞大和版

純天竺様式でない東大寺大鐘楼「重源後天竺様式なし」岸技師は語る

興福寺五重塔四天柱の蝕害 花の松の精力も弱る、白蟻の再発生か

公園の風致上 隣接地買収か 洋式教会建築から問題となる

電信電燈の線を地下に埋める 奈良公園の改善計画 逓信省から出張視察

・昭和2年2月3日 大阪朝日新聞

純日本式の入母屋づくり 改築計画の奈良駅近く必ず実現する

・2月4日 大阪朝日新聞

三笠山の火事 三十坪を焼く

・2月11日

けふの嫩草山焼 余興は多い

奈良営林署では管内び官有林地へ毎年桧、杉、クヌギなどの苗木を植付けてをり、本年も添上郡五ヶ谷村菩提山、生駒郡矢田山村矢田山、高市郡高取町高取山、磯城郡初瀬町与喜山その他に約百町歩の植林を行ふはずで、目下準備を進めつつあり例年は本月十五、六日ごろから植付けに着手するのであるが、今年は北陸地方その他に大雪があったためその影響をうけて大和地方は雪量においては例年と大差ないが、雪の度か本月中旬から下旬

・昭和2年2月18日 大阪朝日新聞大和版

桜の老衰で 施肥デーの試み 満山臭気にみちた 十六日の吉野公園  
県立吉野公園の桜は老衰、枯損するものやうやく多くなり、天下の名勝にさびれが来ては一大事と地元の保勝会でも県公園課でも頭をいためていたが、十六日施肥デーといふ珍しい試みを行った、これは上、中、下の千本桜樹叢生地のうちとくにやせた部分を選んで吉野山村大字吉野山の区民がめいめい自家の人糞尿一荷づつを荷って施肥するので、朝のうちから区民二百七十名、二百七十荷を梳きこんだほか油粕百四十玉も同時に施肥した、坂本村長がこの監督にあたったほか県から坂田公園課長、大北書記、清水技手出張したが、満山の臭気に閉口せず区民が大熱心だったのに感嘆したといふ、本年は害虫の被害も少い模様だし、施肥の効もあらはれてよい花をつけるであらう

・2月25日 大阪朝日新聞

売却反対派やうやく軟化 春日大宿所問題で総代祭務委員の会合

インクラインエレベーターに 模様替への嫩草エスカレーター

吉野山保勝会長 阪本氏に決る

・昭和2年2月26日 大阪朝日新聞大和版

御成婚記念の嫩草山の桜 今春は見もの  
御成婚記念事業として奈良実業協会主催で各方面から募り県へ寄附された桜樹二千数百本が嫩草山の三重目と二重目の谷間に植付けられているが、昨今早く蕾をつけているのでこれから暖かくなるにつれ綻び初めるが、今春の花期には嫩草山の風光と共に美観を極めるだらう、県公園課では同山を月の名勝と共に桜の名所とすべく同樹の養成に努めている

・昭和2年2月26日 大阪朝日新聞大和版

高市の山百合 大規模に栽培

・昭和2年8月5日 大阪朝日新聞大和版

金剛山 植物採集会 牧野博士の講演

◇去月末三日間にわたって大阪植物同好会主催東京帝大の理学博士牧野富太郎氏を講師とした金剛山植物採集会が開かれた、参加人員八十余名

◇第一日は大阪府南河内郡千早村千早小学校（千早城麓）に集合、登山各々採集の上同夜は山頂の葛木神社社務所崇忠館に一泊、一行の茶話会で牧野博士の採集品説明があり、二十六日は山頂を中心に主として河内側方面を、二十七日は金剛山中の最高峰国見山の参謀本部測量部三角点設置所（楠公表忠塔の建設地）から宇智郡五條町米田栄次郎氏所有の高山植物研究地へ採集下山し、帰路宇智郡北宇智村小学校で集合解散

博士は金剛山特有の珍奇植物五種を発見、詳細は研究の上金剛山植物目録と、もに近く学界に発表される

◇山頂の葛木神社社務所の現在の気温は日中でも七十度位、朝夕は寒冷を覚ゆるほどで昨今多数の登山者を迎送しているが、来る十月四日には久邇宮殿下の御登山（竹内栖鳳、山本春挙、平福百穂、神阪雪佳各画伯随行）が確定しているので、所轄南葛城郡葛城村役場ではこれが道路開修のため二十七日より調査に着手し、大阪府南河内郡千早村の楠公顕彰会では千早城趾の修覆にとりかかっている、百済知事は三十一日吐田郷村閑屋から登山実地検分をした

◇宇智、南葛城、大阪府南河内三郡教育会の計画にかゝる楠公表忠塔は設定場所が国有林であるので、一部の材料はすでに到着しながらまだ許可がないので工事に着手することが出来ない

◇また大和、河内の両国から願になっている六会社の索道及びケーブルも国有林を通過するので風致の関係上未許可のまま行悩みの状態であるらしい

・8月9日 長谷鉄道が参宮電鉄に買収されるに決定

・8月25日 大台登山（1）連載、8/26、8/28、8/30、8/31

・9月3日 牡鹿に近寄るな

・9月7日

奈良漆器の改善 骨子を掴み得た

今は実地に応用するばかり 講習会の一大収穫

・9月7日 秋の奈良公園

・9月8日 春日野運動場面目を一新す

・9月10日

諸方から引く手あまたの松茸山

地元の公共団体へ払下げ

一雨ごとに松茸シーズンに入って昨今県下各地から松茸山買取方を奈良営林署に申出るのが日増しに増加し、九日の如きは御林山始め五條、宇治（智か）方面から約十名の申請書を出したが、同署では本年は各地からの申請書があまりに多いので、なるべく各松茸山

・昭和2年2月11日 大阪朝日新聞大和版

開祖遠忌と蔵王堂落慶供養 四月三日から七日まで 金峰山寺の盛儀

吉野山天台宗修験道本山金峰山寺では本年四月三日より七日まで蔵王堂落慶供養ならびに開祖役の小角二千二百五十年遠忌を挙げるが、この経費約四万五千円を計上し本堂信徒より募金し、客年来長尾住職信徒総代が協議中だったが諒闇中なれば装飾その他質素に行ふべく近く協議する計画であるが、式場は二千円の工費を支出し本堂内庭に八間に四間の土間に床を張り、畳を敷き勤修の座を設け、本堂正面石段の上部廊下両側に曲形の木柵を設けて石段の幅三間延長四間の渡廊下を造り、本堂と本坊間に幅九尺延長四十間の渡廊下を設置し、僧侶牧師の通路とするほか本坊の外庭に四間と八間の臨時食堂、本堂境内南隅に御供物棚を設ける、右の工事は三月十日までに竣成の予定で、同地方はこの成儀を当込んで一と儲けせんと準備に忙はしいと

・昭和2年2月11日 大阪朝日新聞大和版

けふの嫩草山焼 余興はない

奈良嫩草山焼は例年のとおり今十一日午後六時から行はれる、今年は諒闇中のこととて花火打上げ、宝さがしの余興などをとりやめ単に焼くにとどめるが、奈良県では地方客の雑沓を慮り当日午後八時三十六分同駅発桜井廻り高田行きを増発すると

・2月12日 観衆が多く 賑った三笠の山焼

・2月12日 片岡の梅 寒さで遅れる

・2月16日 大阪朝日新聞大和版

博物学年表に訂正箇所を発見 下市町にも幕府の直属の薬園があった

◇植村佐平治の子孫の手紙

史蹟指定地宇陀郡松山町森野旧薬園の研究から、開祖森野藤助と関係ある幕府の薬園監吏植村佐平治の子孫が東京千駄木にいたことがわかり、上田県史蹟調査囑託から照会したところ、十五日とくに大和薬園史の新事実を記した返信が来た、右によると宇陀地方で調査した材料が符合するほか、日本博物学年表および学士院博物雑誌に訂正を要する箇所さへ発見し、吉野郡下市町にも幕府直属の薬園があったことなどもわかった、今春内務省から発刊される森野薬園調査報告はいろんな意味で新材料が提供されようといはれている

・昭和2年2月16日 大阪朝日新聞

京都奈良間鉄道工事 明後年二月竣工

・昭和2年2月16日 大阪朝日新聞大和版

官有林の苗木の植付 寒気のため一ヶ月遅れる

ガホ会、ワラヂ会、近畿山岳会、日本岳友会、克遊会、浪花共楽会、あしべ会、岳連倶楽部等千余人

・3月17日 大阪朝日新聞  
お守りを公園で売り引ッ張らる

・3月17日  
賀名生の 梅林と史蹟  
吉野郡賀名生村では賀名生神宮創建を計画する一面梅林と南朝史蹟を生かすため史蹟および名勝地として内務大臣の指定をうけるため、過般本省あて黒板、三好博士の实地視察を申請したところ、最近県あて同地の伝説、現状、地籍など詳細な記録を送付するやう通牒して来たので、直に同村へ移牒したが、現在後村上天皇の皇居跡とされているところには異論があり、県でもその各地点については単に伝説として取扱っているにすぎず、そのいづれかが確定的な史蹟となった暁はじめて指定の段取りとなるだらうとみられている

・昭和2年3月18日 大阪朝日新聞大和版

賀名生の梅林と史蹟 指定の段取り

・昭和2年3月18日 大阪朝日新聞大和版

神鹿の角切り来年復活される

春日神鹿保護会理事会並に評議委員会は十六日午後一時から県公会堂で開催、昭和二年度予算を附議一昨年から動物愛護の上から取止めとなっている年中行事の角切り復活につき論議され、奈良繁栄の一途として本年から復活するに決したが、諒闇中のため本年だけは遠慮し、昭和三年から従来通り年中行事として角切を行ふことゝなった、鹿害防止については十ヶ條にわたる協定書が手交されたが、そのうち鹿害被害賠償、防止の費用として同会から金一千円を市農会へ交附することを議決した

・昭和2年3月19日 大阪朝日新聞大和版

下流の堰と漁獲 吉野川の鮎を衰滅さす

隣県へ交渉して貰ひたいと 関係町村長から陳情する

過日の県下町村長幹事会において吉野川筋 関し関係町村長に一任し目下各町村長の同印を求めつゝあるが の理由は

吉野川筋の漁業といへばすなはち鮎漁であつて、その数の は直に生活上の を起し、かつ名産としての に を来すがさきに和歌山県下 郡 村大字小田川の 水を引くため大井堰を したため舟橋の では るも鮎の上流を阻止す

ること しく、また同区域に漁業を ぬるときは全く鮎遡上の を阻止するものであるから同区域を に 定さるべく和歌山県へ交渉するほか同地方で六月一日の鮎漁解禁 前に小鮎の が多 あるためこれが を にして貰ひたいと陳情しやうとするもので の切迫している今日であれば に調印を め上 する予定である

・昭和2年3月30日 大阪朝日新聞大和版

通行できる千石橋の仮橋（12日の記事、十日夜の暴風雨）

墜落した吉野郡千石橋の仮橋工事は二十六日工を終り二十七日から一般の通行を許した

・3月30日 大阪朝日新聞

ラムネやサイダーにガラスの破片 奈良公園の掛茶屋で 衛生課員が飲食物検査

ロキ取締り 有志者の陳情

正倉院前の芝生燃上る

・4月5日 奈良公園本年始めての人出

・4月12日 晴れた花見日より 大和路かけての人出

奈良公園の桜の花かげには 春先をたのしむ人々で一ぱい

・昭和2年4月14日 大阪朝日新聞大和版

咲き誇る吉野山の桜 清流に花いかだ

花の吉野山も昨今下中両千本が満開期に向かったので、毎日沢山な観桜客をひきつけている、白緑の苔むす老樹は白蟻に侵されるので年々若木の補植をみるが眼界がひろくて無限の欲望をもつ現代人にはまだ物足らぬと見え、六田から吉野神宮まではもちろん向ふにかすむ植林地にも植たらなどゝ注文する、寒中の施肥がつぼみ時代にウソの大群が襲来して荒すのを防ぐ労苦などは頭からそろばんに入れない呑気さ、花に酔ひ人に酔ひ酒に酔ふて電車で押し合ひへし合ふことは知るも、吉野川の清流にさをさす花いかだの来るのを知らない。

・昭和2年4月14日 大阪朝日新聞大和版

行商人 三笠山麓に 立入り許さる

・4月19日

名残りの花よと 奈良へ押寄せた人波

春日和に恵まれた第三日曜 電車も汽車も大こみあひ

・昭和2年4月19日 大阪朝日新聞大和版

吉野 山路五十町人で埋まる

十七日の第三日曜に吉野の花に集ふ人は実に数万、ために吉野電車から上の一目千本まで五十町の花見の路は全く人を以て埋め尽した、中の千本、下の千本は満開で、花の下いたるところ乱ちき騒ぎの宴が開かれむしろ凄まじい光景であった、この日吉野電車は電車十数台、電気機関車二台、それに蒸汽機関車二台の総出で輸送に努めたが、はち切れるほど呑吐してもなほ及ばず、ために五十分延着といふ有様であった

・昭和2年4月19日 大阪朝日新聞大和版

全国から奈良へ 見物に来るお客 一ヶ年に百四十三万人

奈良の遊覧客は年々増加の傾向があるが、一半は阪神地方から大軌電車で、一半は全国各地から汽車で運ばるゝの例である、今昨年度（昨年四月から本年三月まで）中に奈良駅へどれだけの遊覧客が出入りしたかといふに

乗車 一等九十四人△二等三万五千六百八十八人△三等百四十一万一千九百四十五人△合計百四十五万一千六百七人

降車 一等一千九十一人△二等三万五千三百五十四人△三等百三十九万五千九百二十六人△合計百四十三万二千三百七十一人

で乗降二百八十八万三千九百七十八人の出入りがあつた勘定で、天理教四十年祭で臨時にけた外れの人を運んだ前年度にくらべると不景気も多少手伝つて二十七万三千二百六十五人も減っている、さて百五十万に近い乗客で同駅の儲けた金は

乗車賃金六十万七千 七円九十銭△入場料その他雑入六千四百五十三円二十一銭△小荷物賃金三万二千八百七円七十四銭△合計六十四万六千二百六十八円九十二銭

であつてこのほかに同駅が扱つた貨物

発送 小口扱十三万七千四百五十六個、五千八百九十八トン△特別小口扱五千百三十七個百八十四トン△貸切列車一万三千六十九トン

到着 小口扱十五万九千四百四十二個、六千六百五十八トン△特別小口扱四千三百五十三個、百四十四トン△貸切列車三万六千八百一十一トン

の荷扱ひで六万六千九百八十円三十一銭とこれにともなふ雑入五百十四円六十五銭、合計六万七千四百九十四円九十六銭があるから同駅一年間の実収入は七十一万三千七百六十三円八十八銭で、お客の減少とは反比例に前年よりは三万円ばかり多く稼いでいる

・昭和2年4月26日 大阪朝日新聞大和版

彌山に群生する オホヤマレンゲを天然記念物に近く指定

大和山岳会では過般吉野群峰中の最高峰彌山に登山の際同山腹にオホヤマレンゲの群生するお花畠を天然記念物として県農林課を通じて内務省に指定方を申請したので、同当局および大阪営林局奈良営林区署ではその後同山に多き専任技師を派して種々調査するところあり、このほどに至っていよいよ同所を天然記念物として指定することにほゞ腹をきめたいらしい、なほ奈良営林区署では来る六月六日から約二週間大阪営林局より吉江技師の来県を求めて再調査方々高山植物の研究および學術写真の をなすことになった

・昭和2年4月26日

県内の薬用植物 昨年中の生産高

昨年度中における県内工芸農産物中薬用植物は二十一町六段六畝に栽培して三万三百四十五円を取り上げているが当帰（タウキ）の四万三千五百六十四斤、一万二千六百十九円が一番多く、川芎（センキュウ）の八十斤、三十六円が一番少ない、栽培種類左のとほり  
タウキ四万三千五百六十四斤、一万二千六百十九円△ポタンヒ二万一千四百二十五斤、五千八百四十円△シャクヤク四万五千四百四十斤、九千七百九十円△ダイワウ五千二百三十五斤、句百七十五円△センキュウ八十斤、三十六円△ケシ十三斤、三百八十五円△その他五千六百二十五斤、七百元

・4月26日

つち音高く 宮柱に響く 吉野神宮の上棟祭おごそかに執行さる

・4月26日

若葉もえそむ奈良公園へ 日曜日の人出賑やか

花はをはりに近づいたが奈良公園には若葉がもえてむせるやうな初夏の気分が公園の装ひを新たにしようとしている、二十四日の日曜は春の名残を惜むと共にはつらつたる初夏の自然に親しまうとする人でにぎはった、大軌、奈良、京終三駅の乗降人員を見ると左のとほり

乗客三万六百八十八人△降客三万一千二百十八人△合計六万二千六十八人

・4月28日 借地人組合が 費用を負担して 奈良公園を清潔にする

・5月4日 当麻寺の牡丹

春日山に建てる原始林の標識 二間余の石標三本と五寸角の石標五十余本

・5月26日 彌山に群生する オホヤマレンゲ天然記念物に近く指定

・5月27日 漆器展終る

・昭和2年6月15日 大阪朝日新聞大和版

蛍と河鹿 奈良公園に放養

奈良公園大仏前の名物「大仏ほたる」は天然記念物指定の前提として県から捕獲を禁じ、この数日の気温にそろそろ出始めたのを公園看守がそれとなく見張りをしているが、年々少くなって行く傾向があるので、本年は他から更に移殖させようと目下各方面へ照会中であるが、多分江州膳所地方から移されるであらう、なほ同地域内を流れる吉城川にいつの頃からか河鹿の美声が聞えているので、こゝでも十分棲息する見込みをつけた公園課では目下吉野郡の峡谷から河鹿三十余匹を捕獲し吉城川に放養すべく計画を進めている、今夏からは蛍と河鹿で夜の公園を慕はせようといふ趣向である

・昭和2年6月15日 大阪朝日新聞大和版

国立公園候補地 大台ヶ原山 県が林相保存に力癩

昨春来内務省で計画中の国立公園設置の件は、昨今漸く具体化して富士の裾野以下十七ヶ所をその候補地に内定したが、その中に本県吉野群峰中の大台ヶ原山も加へられている、すなはち大台ヶ原は全国有数の高山原野で保安林に属し海拔千六百九十五<sup>尺</sup>、その台地面積八百余<sup>畝</sup>大和連峰中の山上、釈迦、弥山等の各峰をへいげいし遠くは尾鷲、鳥羽方面を眼下に、また快晴に恵まれるれば富士山の秀麗をも眺めることが出来る、殊に同山麓吉野川上流入の波の筏場に沿ふ溪谷は天下一品と称せられているが、同山頂はこゝ数年前四日市製糸（紙）会社の所有に属していた当時盛んに伐採したため大部分山相を改め、現在では樹林地としては大杉谷の御料林を残すのみで、その後県でこれが防止をなすべく正木ヶ原一帯に墜石を布いて林相保存に努めている、なほ大和山岳会でもその後極力同山の手入れに努めていると

・7月9日 三笠ケーブル 起工延期の申請

・7月20日

三笠山へ 登山自動車 関代議士らの計画

市内紀寺町代議士関俊吉氏ほか七名は今回同氏ら発起のもとに三笠山に登山自動車株式会社（資本金十万円）を経営すべく、これが専用軌道敷設許可方を十九日県公園課に申請した、右計画による軌道の敷設場所は三笠山麓北側の森林中（三笠山麓より頂上に至る全長約半マイル二十チェン）で、同専用軌道の工事計画は大体生駒町における生駒登山自動車のそれと同様同山遊覧客の旅客輸送を主とし、許可の暁は直におそくも明春の遊覧期までに間に合はすとの意気込みであるが、同山には昨年来出願許可を得た三笠登山索道株式会社のエスカレーター変更トンネル式索道があり競争の様らしい

・昭和2年3月3日 大阪朝日新聞大和版

新しき村 支部演説会

新しき村奈良支部では六日午後一時から大豆山町満月会事務所で演説会を開く

奈良支部存在の意義（渡辺二郎）日本演劇史上のルネッサンス（松本檜重）幸福感と透徹した人生（大阪支部藤堂晴美）自作脚本朗読「夢の名残」一幕（松田義雄）演出研究、本読み、武者小路氏作「或る画室」の主題六場

続いて例会を開き支部設立一周年記念撮影、懇談会（将棋優勝戦）食料品部協議会等がある

・昭和2年3月3日 大阪朝日新聞大和版

野荒らしする神鹿を 徳島県から分譲の希望

奈良春日神社の神鹿野荒し問題からこれを銃殺せよといふ農民側の強硬意見も出たことは既報したが、神社側ではいかに害鹿でもまさか銃殺することも神さまだけに決行しかねるのでためらっているうち、徳島県那賀郡羽の浦町春日神社からこれが分譲の願ひを提出するところあり、昨年来県社寺課でその拒否につき詮衝中だが、斎藤内務部長の意見もあり果して害鹿なるかを調べた上にしたいとて近く社会課員が実地踏査をする模様である、神社側や県公園課では神鹿数過多の結果隣接農村に被害をみるのだらうと考へている

・昭和2年3月4日 大阪朝日新聞大和版

昨年の収繭額 九十七万余貫

相場下落のたゞりで 前年より二百余万円の減収

・3月12日 大阪朝日新聞

奈良盆地を吹捲った十日夜の大暴風 奈良公園の梅、桜をへし折り 桜井の乾繭倉庫を倒壊さす

・昭和2年3月12日 大阪朝日新聞

賀名生の梅林 見ごろは二十日前後から 大阪方面から団体の観梅

南和の名所賀名生の梅林はボツボツ咲きそめて来たが、今年は寒気強きため多少遅れ気味で二十日前後から四月初旬へかけ満開期となる、観梅林には処女会員の斡旋、名物去勢鶏のすき焼きがある、目下大阪方面から団体観梅申込は左のとほり

期日十三日、二十日、二十七日、四月三日で勇集会、アユミ会、此花会、ミテコー会、エ

所在地部落の公共団体へ払下げることとなり目下詮衝中

・9月14日

松茸の人工栽培 三郡内で実行

大和山林会では本年度で宇智、吉野、生駒三郡山間部に合計四ヶ所の場所を設け松茸の人工栽培を行ふはずで目下候補地の詮衝中で、一般人にかくすれば成績よく栽培できるといふ方法を知らしめるやうな方法を取るはずで、県から三百円の補助が支給された

・9月15日

生きた鹿を 出品するか 東京の産業博へ

・9月17日 貴重な草木に富むどろ八丁

・9月18日

妹山の美林地帯を名勝地に一先指定する

・9月21日

茸山といふ 停留所 シデ原に設置

今年の松茸は多からうと山でのうはさ、しかし不景気で阪神方面の茸狩客 例年に比し少き見込であるが、各産地ではそれぞれ茸狩準備に余念がない、電車開通で新たに開けるところは生駒信貴線の平群一帯で臨時停留所茸山といふがシデ原に設けられ、十月三日から山開きをする、同地保昭(勝)会ではすき松一人前二円四十銭(かしわ四十匁、松茸百五十匁、砂糖、酒二合、焼茸飯たべ次第)と定め、茸狩に通有なボリ方を戒めると、また大軌線では二上附近が新たに開かれるらしくいづれも盛りは来月中旬の予定

・昭和2年9月23日

生きた鹿 殖産博へ 出品きまる

・昭和2年9月24日

まつたけ ことしは早く出やう

一雨ごとに松茸シーズンに入って既記のごとく県下各地の松茸山ではソロソロ茸狩りや山番の用意に取りかゝったが、今年は各地とも豊作の見込で出盛りも天候の加減で例年より約二週間早いといはれている、殊に奈良営林署管内の矢田山園地並びに小島山等の各松茸山では早くも二十五六日ごろから出始めるそうで、同署の本年度生産総予想高は全管内で

二千六百余貫（前年度より約三割方増収の見込）を見積っている、なほ出盛りは来る十日前後で管内最も生産額の多いのは宇治御料山園地で総生産高の約四割を占めていると

・9月29日

松茸の走り まだ高い

香り高い松茸の走りがチラホラ八百屋の店頭姿を現はし始めて食道楽連の食欲をそそっているが、二十八日の如きは早くも市内あちこちに呼売りの声さへ耳にした。ものは春日奥山白州産等の地のものだが、まだ出たての二三寸から四五寸位の大きさに値段も百匁二円から二円五十銭といふべら棒な相場をつけている

・9月30日 鹿害を防ぐ柵門 新設の陳情

・10月2日 大阪朝日新聞大和版

二百余頭の 角切り 本月中に断行

・10月5日 大阪朝日新聞

三條通りをアスファルトに舗装 工事費六万円を要求

・10月6日

日々に下る 松茸の相場 お客を待つ松茸山

数日来地松茸の市場に出づるもの漸次多きを加へ相場は日々に下って行く、昨今上物五十銭から三十銭位まで十日以後はズット安くなるであらう

青年会経営の松茸山 磯城郡上之郷村大字笠では三年前から青年会が松茸山を経営することとなり、種々の便宜を与ふると共に山の設備も完全にした、接待は紺の筒袖を着た純朴な青年で山は海拔五百十三坪もあり、大和平野を一望のうちに収め得る景勝の地で、初瀬から二つ橋まで自動車の便がありそこから山まで五町にすぎない、帰途は丹波市へ二里、三輪へ一里半、柳本へ一里、秋一日の行楽に適している、申込みは同地青年会宛のこと

南葛の松茸狩 腋上村の玉手山、葛城村のみとせ山は古来聞えた茸山で、十日ごろから出盛りである、地方有志は茸狩客を迎ふべく種々の設備を施して準備中で、両山共御所から自動車の便がある

・10月7日 大阪朝日新聞

訪客を避けて奈良へ来た蔣さん 大鐘に打ち興じて上機嫌（蒋介石のこと）  
舗装より先に下水道の完成 奈良市工務課の意気込

・10月9日 大阪朝日新聞

殖産博に異彩を放つ 県下の出品 飛ぶやうに売れている 阪田公園課長帰来談

・10月9日

けふの茸狩 市近郊と電鉄沿線

秋もいよいよ酣となり郊外の散策ピクニック、さては茸狩等と行楽の絶好シーズンとなったが、分けても市近郊および各電鉄沿線の各茸山では何れも時を得顔に山開きをなして、一般茸狩客の来山を待っている、けふの日曜を茸狩に出掛けんとする人々のために茸山の案内記を書いてみると

△市の近郊 忍辱山、御殿山、寺山、菩提山、五本松等の茸山があるが、特に五本松、菩提山は自動車の便がある

△大軌沿線 鼻高山（富雄下車二十町、乗合自動車三十銭）美の山（同廿町）平松山（尼ヶ辻下車十町）国分山（国分下車十町）玉手山（国分下車八町）関屋山（関屋下車三町）二上山（二上下車六町）

△信貴電車沿線（生駒乗換）平群西山、葛蒲谷山、しで原山等

・昭和2年10月9日 大阪朝日新聞

植物二種 天然記念物に指定の申請

かねて調査中の吉野群山明生ヶ嶽から弥山にいたる沿道北西部の名物大山蓮華および同郡下花（北）山村大字前鬼牛抱坂附近百九町歩のししんらん叢生地一帯は地主之諒解も得たので、八日県から本省あて天然記念物指定の認可を申請した、直に指令があるはず

・昭和2年10月11日 大阪朝日新聞

百濟寺の三重塔売却さるゝか

・昭和2年10月11日 大阪朝日新聞大和版

公園の自動車道路 その他の大問題を附議した奈良実業協会役員会

既記今井忠一氏の印度南洋視察講演会に引続き新温泉で開会の奈良実業協会役員会に奈良ホテル支配人中村伊津吉氏から

一、奈良公園の風致は旧態そのまま保存せられたきこと

一、奈良公園春日山探勝に自動車を利用するため同山周遊道路を適当に修繕または取り上げ自転（動）車運転道筋を登大路から水谷川に沿ひ登山瀧坂道から高畑へ下る一周道路とすること、そして右実現の上は公園内旧来の遊覧道筋は自動車運転を遠慮し徒歩遊覧者の心を緩め安楽に遊覧せしめ得ること、但し人力車の通行は従来通りなること

一、奈良市は遊覧客誘致及び遊覧客厚遇策を講ずるのほか学校地（高等教育）としてその実現努力を継続すること

一、県下古社寺就中春日神社、東大寺、興福寺、西の京、法隆寺、多武峰、吉野は本邦の史蹟としてはもちろん東西洋を連結せんとして新大陸を発見した伝説にも関係があらうと推測し得る世界無双の勝地であるから国帑を以て別格の保護を与へられたきこと等の提案があり大問題も含まれているのでよく研究しかつ実査をもとげる必要があるので次回に持越すこととし散会した

・昭和2年10月12日 大阪朝日新聞大和版

畝傍山に 香高い松茸

昨今の畝傍山には香り高い松茸やしめじなどが踊り上っているので、これらをあさる人の群で賑はっている、写真はそれである、また山辺郡丹波市町天理教本部墓地附近の山林の松茸は香味において県下で一頭地をぬき毎年松茸狩客が多数にのぼりつつあるが、本年は中旬が出盛りで毎日茸狩客で賑はっている、なほ石上神宮東の内馬場山及び豊井山よりも多額の松茸が産出されるのでこれまた茸狩客で賑はっている

・昭和2年10月12日 大阪朝日新聞大和版

外材輸入のため森林収入が半減 関税引上の陳情書 大和山林会総会で作成  
大和山林会では十四日

・10月13日 大阪朝日新聞大和版

本省よりも二十年前から 自作農資金を作った

それは労せずしてとれる松茸山から 一万五千円蓄積した下市町原谷  
全国にたった一つあってしかも今本省でやかましくいっている自作農創設維持資金規定の実行を本省よりも二十年も前から実行している組合が本県にある、それも松茸山から生ずる利潤をこれに充当するといふ珍しくも進んだ自治団体である、吉野郡下市町大字原谷は下市市街南部に位し東西一里南北二十五町の純農村で四周に山を巡らし戸数五十戸、山林五十八町歩の小村であるが、松茸は別に区民の労資を要せぬ副産物だからそれから生ずる利益は全部積立て、大字の民利増進に充当しようといふにある

同大字山林中に発生する松茸はもと発生中庶民の自由採集を許していたが、明治初年から請負とし収入は区有財産としのち半額は所有主に支払ふようになり、幾多の変遷を経て現在は区民相互保護盗難の監視をし請負人に安心して請負はしめることとし、上った金は全部区有財産とすることになったもので、当初は十分規定の諒解がないため一部に不平あり、積立金が増すにつれて規定外の事業に利用せんとするものもあつたがよく継続して、現今の原谷松茸山保護組合を確立し、中産以下の農民の自作農を奨励するため土地購入資金の低利貸付に充当するほか、進んで自作農維持資金規定をも作らんとし、政府よりも二十年

の先見の明あったことを証明した、このことが中央で評判となるや山林局や内務省でも注目しその調査方を県へ依頼して来たりしている、今では積立金も増加し土地購入者も殖え本年だけでもすでに購入者九名、一町五段にのぼっている、なほ現在の別途積立金、有償証券、貸付金、現金合計一万五千四百円を有し、これが松茸の売上代で積立てたと思へばなかなか軽々に見逃せぬことである、かうした組合の事業は当該郡長の（当時の）許可を経べきものであったかも知れぬが手続が永引いて結局おちゃんになってはせつかくの名案も葬られるとし俯仰天知に恥ぬ確信をもって独断今日の基礎をつくったといふ、組合の申合中前記以外のものを示せば左のとほりである

△積立金の利子は教育補助奨励費に一部充当のこと△個人有山林中の松茸は区で請負入札し、請負金の半額は公平な割当方法で所有主に支払ひ残額は積立て勤業奨励費として農産物品評会、共進会開催または先進地の視察費とする△松茸発生中は地主でも勝手に入山することを禁ずることなど

・昭和2年10月13日 大阪朝日新聞大和版

松茸出盛り 生駒谷一帯は 茸狩客で大賑ひ シデ原山のテント張り

松茸はこゝ数日が出盛りである、相場もグッと下って最低十五六銭位——山も茸狩客で大賑はひ、名産地の生駒郡平群谷一帯では臨時停留場に日本一と銘打ち山々には幾多のテントが張られている、シデ原山、菖蒲谷、平群西山、信貴山、椿井山、三里山などいづれも便利で豊富に出る、そのうち

シデ原の茸山 は三町歩ばかりで村民は全戸数十七戸の男女全部を会員とした襖唱会といふのを組織し、一千五百円を投じて七つの大テントを五百人分の料理器具を新調し、産出量約一千貫の松茸を全部山で売らうといふのである、従来この山の松茸は大軌沿線の△△山へ売られそこに植えつけられて二度の勤めをするが例であったが、今年から一本も他へ出さぬので△△山では茸狩客を呼べぬので困っているとやら、村では信貴電開通後始めての茸狩客を迎へることであり、かつ将来これを農家の副業とすべく一致協力の事業として茸狩客一人につきとった松茸百五十目に鶏肉四十目酒二合あしらひ三品松茸飯食ひ次第で二円五十銭と定め、少しもぼらず一本でも植えた茸があれば全山の松茸を無料で提供するといふの勢ひ、茸山臨時駅を下車するとすぐなので女子供は大喜び、次いで

菖蒲谷平群西山 もシデ原山につぐ産地で愛交会といふのを設けシデ原同様一人前二円五十銭で客を迎へている、菖蒲谷はかつて大阪財界の大御所として時めいていた岩下清周氏が三百の北浜銀行員を引き具して豪遊を試み醇朴な山民を驚かしたところ、今なほ当時の面白い挿話も残っているさうだが、前者は元山上駅から東へ約五六町、後者は平群駅から西へ五町にすぎない、茸の質はいづれも堅くて白く良好で故北畠男が法隆寺の松茸は堅くて白く石に投げつけ微塵に砕け去る日本一の良質だといった、それにまさるとも劣らないさうである

\*信貴生駒電気鉄道 大正11年一部区間を完成させ、菜畑・生駒間を開業し王寺・生駒間が完成したのは昭和2年4月1日のことである。

けふ招魂祭 奈良公園で

・昭和2年10月15日

松茸の豊年 茸狩客続々入来 相場は百目十二三銭に下る

宇智郡 宇智郡に於ける松茸の年産額は平均七八千貫目であるが、本年は特に豊作であるため一万貫を突破するものと見なされている、産地のうちで有名なのは宇智村大字小島栄山寺山の官有林で年々一千貫以上の産出があり、小島山松茸の入札で毎年地方的の価格がきまると称せられているほどである、牧野村大字木の原山は約五六千貫の産出で宇智郡松茸の半以上がこゝから出ている、そして日当りの関係から遅速があり小島山は遅く木の原は速い、本年の相場は貫に付き最高二円から最低六十銭見当、品質によってそれぞれ値段があらけてくるが平均は一円二十銭が相場である

北葛城 北葛城郡における松茸の産地でもある二上、関屋両山および志都美山は目下松茸狩で大賑ひである、ことに大軌沿線の関屋、二上両山は大阪方面よりの乗客が全山に張渡された天幕目掛けて続々と押しよせ、ために営業者は客ひけ後松茸を植えるのにてんてこ舞ひをしているとのこと、なほ相場は出始めたばかりには百目十二三銭で出されるやうになった、茸狩の最盛期は十六、七日ごろとの見込み

・10月20日 大阪朝日新聞

ロキの根絶を初め名産品の価格一定 宿屋、料理屋の改善など 市発展協議会で方針きまる (記事は面白いが省略)

・昭和2年10月21日

公園の自動車道路 その他の大問題を 附議した奈良実業協会役員会

既記今井忠一氏の印度南洋視察講演会に引続き、新温泉で開会の奈良実業協会役員会に奈良ホテル支配人中村伊津吉氏から

- 一、奈良公園の風致は旧態そのまま保存せられたきこと
- 一、奈良公園春日山探勝に自動車を利用するため同山周遊道路を適当に修繕または取り拡げ、自転車運転道筋を登大路から水谷川に沿ひ登山瀧阪道から高畑へ下る一周道路とすること、そして右実現の上は公園内旧来の遊覧道筋は自動車運転を遠慮し、徒歩遊覧者の心を緩め安楽に遊覧せしめ得ること、但し人力車の通行は従来通りなること
- 一、奈良市は遊覧客誘致及び遊覧客厚遇策を講ずるのほか学校地 (高等教育) としてその実現努力を継続すること
- 一、県下古社寺就中春日神社、東大寺、興福寺、西の京、法隆寺、多武峰、吉野は本邦の史蹟としてはもちろん東西洋を連結せんとして新大陸を発見した伝説にも関係があら

うと推測し得る世界無双の勝地であるから国帑を以て別格の保護を与へられたきこと等の提案があり大問題も含まれているのでよく研究し、かつ実査をもとげる必要があるので、次回に持越すこととし散会した

・10月23日 大阪朝日新聞

当局が案内人に くださった説論「ロキをやめて案内料の値上」集った案内人らの希望市青年団陸上競技 けふ公園内で

・昭和2年10月25日 大阪朝日新聞大和版

妹山調べに三好博士が来る

名勝天然記念物指定の前提として内務省囑託三好理学博士は十一月五日来県し、吉野川畔妹山を調査することになった、これで同地の指定はいよいよ確定となった

・10月29日 大阪朝日新聞

萬葉時代に詠まれた春日山の「かほ鳥」その正体をつきとめようと 研究好きの森口氏が調査

・11月3日 大阪朝日新聞

公園の電柱と電線地上から一掃 逓信省が四、五万円かけて真先に地下線敷設

・11月5日 大阪朝日新聞

外国大使を始め名士ら多数 御物拝観に奈良へ来る

・11月6日 大阪朝日新聞大和版

紅葉見ごろ 県下の名所案内

秋たけなはに山々の紅葉が色づいたので各名所地では日曜ごとに多くの観楓客をひきつけるべく準備中である

△龍田 は王寺、法隆寺両駅から自動車の便がある、兩岸の楓樹は昨今色づきそめ中旬からが見ごろである

△多武峰 は去月下旬以来登山者が多い、こゝは山だけにほかよりは多少早い

△奈良公園 の洞、鶯の瀧、瀧阪などもこれからで楓樹は数千本に達する

△遠くは 宇陀郡曾爾の香落峽、吉野の各山峽は昨今見ごろであり一泊乃至二、三泊の行楽に適する、□（瀨か）八丁へも昨今海路の観光客が絶えないと

・11月6日

御大典記念事業に徴古館と萬葉植物園 奈良県に新設する計画

・11月6日

ロキ問題（一）程度の問題 全廃されぬわけ（連載の記事）

・昭和2年11月9日 大阪朝日新聞

警察へ引張られた 公園の癩患者 収容の場所がないので飯を貰って放免さる  
奈良署では七日奈良の風致を害するものの一つとして厄介がられてをる乞食、癩患者らの  
検挙を行った結果、癩患者五名を引致し市当局に対し引取方を交渉したところ市側では一  
時的にもせよ収容救護の設備はなく、勿論市費を出すものでもないから県当局で対策を講  
じられたいと突き放したから、警察側では処置に困り折角検挙した五名を「空腹のため救  
護を要するもの」として飯を与へて放免し、あぶ蜂とらずに終わったが遊覧地だけに風致に  
関することなので、いづれこの対策につき縣市警察三巴の問題にならうとみられている

・昭和2年11月9日 大阪朝日新聞大和版

吉野川上流の紅葉 これから見頃

吉野川上流川上村を縦貫する七里の溪谷は十二、三日ごろまでが紅葉の最盛季でいたるところ美観を呈している、入の波から大台山麓の五色湯まで二里足をのばせば更に一大仙境に入るの思ひがある、自動車を利用せば奈良から日帰り出来る、  
吉野駅（電車終点）から自動車賃往復、井戸一円八十五銭、柏木四円五十銭、入の波五円五十八銭まで、入の波から五色湯まで徒歩、平坦で婦人子供にもラクである、旅館料亭はいたるところにあつて食事は自由である

・昭和2年11月9日 大阪朝日新聞

徴古館と植物園 新設に努力 名勝調査会できまる

奈良の静けさも今は恋しからず 刺戟を求めて東京近郊へ 転居する足立源一郎氏

・11月11日 大阪朝日新聞

興福寺の樹木に白蟻 朽木の大整理 建物はまだ大丈夫

気遣ひなのは御物 模造品を作つて拝観さすか 正倉院の御物保存問題

・昭和2年11月12日 大阪朝日新聞大和版

奈良公園の風致木 植えかへ

県公園課では十月十日奈良公園の枯損木（樅・榎・雑）用材六十四尺ヰ、薪炭百九十駄を公入札に附し目下伐採搬出中だが、その伐採跡地へは十尺余作業の楓、櫟、樅、杉などの風致木を植えることゝし、目下芳山苗圃から移植中で来月十日ごろまでに終了する、なほその他春日杉などの売却は現在下落している相場の回復を待つことゝ（な）った

昭和3年

大阪朝日新聞大和版昭和3年

- ・1月5日 奈良を愛する外国観光団
- ・1月5日 三輪山の植物を松村氏が研究
- ・1月6日 三十万円を突破する大和売葉の盛況
- ・1月7日 春日の子鹿 犬に襲はれて斃死頻々
- ・1月8日 神鹿の寿命調べ 保護会が手を染める

・昭和3年1月18日 大阪朝日新聞大和版

萬葉植物園と楽園を併置 御大典の記念事業に

さきの本県史蹟名勝天然記念物調査委員会の席上、奈良公園にはもっともふさはしい萬葉植物園を設置されんことを満場一致可決し、その旨知事に上申することゝなっていたが奈良公園の土地装景に努力している県公園課では右植物園を御大典記念事業として設置すべく予算を臨時県会に要求する模様である、ところが現在の県有公園地では適当な場所がないので公園中央部における某氏所有地を買収し、こゝへ子ども本位の楽園を共同設置したい意向であるらしい、具体的の設備は目下研究中であるが大體楽園は大軌あやめ池遊園地に設けられているやうな子供の遊び器具を備へ植物園には植込んだ該植物の傍に読みこまれた萬葉集中の歌を標記し柵をめぐらして鹿害を防ぐ設備でさすが奈良だといふ印象を与へたいと

・1月18日 大阪朝日新聞大和版

春日萬燈籠 三笠山焼き ことしは盛んにやる

・昭和3年1月25日 大阪朝日新聞大和版

古都の春を訪ねる外人団 世界一周団を先頭に陸続きり込む形勢

・昭和3年2月3日 大阪朝日新聞大和版

区民総出で吉野山に施肥 指揮官は坂田公園課長

桜の名所吉野山公園では花の四月を飾るために今から寒肥を施す必要あり五、六両日を吉野山施肥デーと称し、六万五千坪の全山にわたって吉野山区民三百余名か総出で自家の人糞尿二荷づゝを担ぎ坂田公園課長の総指揮で肥おきをすることゝなった、同地方は都会地と違ひ人糞尿は貴重な農作物肥料としてむしろ供給難を伝えられているので施肥デーはかなりの奮発である

・2月7日 堤百間築けば津風呂の溜池

・2月11日 けふ山焼き 消防組の警戒 \*積雪のため延期

・2月14日 大阪朝日新聞  
降雪と雪解から 奈良公園の被害 樹木折れ、電柱や燈籠倒る

・2月17日 延びていた三笠山焼き明夕執行

・2月19日 大阪朝日新聞大和版  
宝物館と能楽 殿萬葉植物園など 御大典記念事業に春日神社で新設計画  
奈良春日神社では御大典記念事業として宝物館および能楽殿の新築春日古文書、春日権現  
靈記の拝写および出版・萬葉植物園新設皇族休憩所新築、本殿屋根葺替へ、作成造林計画  
を行ふべく目下具体案の作成中

・2月19日  
三笠山麓は 人で埋まる 山焼きの日の賑ひ  
雪のため延期となっていた三笠山焼きは十八日執行された、当日朝来の好晴で山草も遺憾  
なく乾き干されてた、たゞ日の暮れるを待つ

・2月19日  
宝物館と能楽殿 萬葉植物園など 御大典記念事業に春日神社で新設計画

・2月20日 半焼きに終わった三笠山焼き

・3月2日 公園の電燈線 埋設工費要求

・3月7日 国立公園記事

・3月11日 奈良都市計画の記事

・3月18日  
猿沢池附近の電柱が消える 地下線に変更計画 公園全部で四十万円要る

・12月20日 沿線から二本の新道路

・昭和2年12月27日 大阪朝日新聞大和版

天然記念物 ししらん群落、おほやまれんげ自生地、妹山樹叢 保存指定にきまる内務省における最後の史蹟名勝天然記念物保存調査に関する協議会は二十四日午前十時から内務省会議室に開催、史蹟名勝天然記念物約七十件を指定するに決定、午後五時閉会したがうち本県に関するものは左の通りである

ししらん郡落 【所在地】奈良県吉野郡下北山村大字前鬼字千代迫【指定地積】民有二筆の内四万坪【説明】ししらんは四国、九州、台湾等熱帯暖帯産の攀緑常緑植物にして本郡所在地たる奈良県はその分布北限地帯に当れり【指定の事由】保存要目天然記念物の部第五による【保存の要件】公益上必要止むを得ざる場合の外現状の変更は之を許可せざることを要す

おほやまれんげ自生地 【所在地】奈良県吉野郡天川村大字北角字峰中、同県同郡大塔村大字篠原字大峰中【指定地積】民有二筆の内百九町二段歩【説明】おほやまれんげは朝鮮、北支那に分布する植物にして四国、九州にも産すれども奈良県下吉野群山は特にこの樹の群生する処あるを以て名あり【指定の事由】保存要目天然記念物中植物の部第二により【保存の要件】公益上必要止むを得ざる場合の外現状の変更はこれを許可せざることを要す

妹山樹叢 【所在地】奈良県吉野郡龍門村大字河原屋字妹山【指定地積】国有二筆二町七段三畝二十八歩【説明】妹山は吉野川の岸辺に屹立し、その地域の小なるに拘はらず天台烏薬その他暖地植物を産し、殊に山頂における「つるまんりやう」純群落、山腹における「るりみのき」の純群落の如きは稀に見る所なり【指定の理由】保存要目天然記念物中植物の部第一に依る【保存の要件】公益上必要止むを得ざる場合の外現状の変更は之を許可せざることを要す、他所より樹草を移殖することは之を禁ず

・昭和2年12月27日 大阪朝日新聞大和版

保存、届出の注意を喚起

県では県民一般に史蹟名勝天然記念物保存または届け出の趣旨を徹底させる方法として古墳墓、遺失物法、森林法、広告物取扱い法、狩猟、漁業法などの関係諸法規全部をまとめた印刷物を作り関係方面に配付して注意を喚起するはず

公園の新しいあいけうもの（猿の出現の記事）

・11月12日

生駒ケーブル 山上への延長線 停留所の位置きまる

・昭和2年11月12日 大阪朝日新聞版

世界に類例の少い 吉野の原始林 我国の貴重な国宝 三好理学博士談（上）  
内務省史蹟天然記念物調査会委員理学博士三好学氏は去る大正八年史蹟名勝天然記念物保存法の発布以来植物保存のためしばしば来県各地にわたって調査されたが、特に吉野郡の各種植物に対しては力を致すところが多い、同博士の談に  
天然記念物中植物も漸次保存の実を挙げつゝあるが奈良県の如き卓越せる多くの史蹟がその保存方法の完備して日本一なるに引きかへ天然記念物は必ずしもさうとはいへない、吉野郡の奥地に存在する千古斧鉞の入らぬ鬱蒼たる原始林は 世界に類例の少なき貴重なもので、その一部は我国の国宝として永久保存の方法を講ぜなければならぬものである、しかるに大台ヶ原に天生した  
タウヒの純林 が今や跡形もなく濫伐せられたのは遺憾この上もなく、全く長大息を禁ぜざるを得ない次第である（つゞく）  
△附記 右大台のタウヒ純林は十年前四日市製紙会社を買収し製紙原料として軌道、トンネル、インクラインなどの大仕掛けで数年にわたって伐採されたもので、現在多少残存しているのは当時名勝地風致林として伐採を禁じたものにすぎない

・11月13日

奈良公園の 追加名勝地 本指定となる  
かねて知事の仮指定となっていた奈良公園の追加名勝地国有公園平坦部五千二百四坪ほか数百筆の地は、このほど内務省の名勝本指定地となった

・昭和2年11月13日 大阪朝日新聞大和版

貴重なる原始林 その保存方法について 三好理学博士談（下）  
さきに仏教ヶ嶽から明星ヶ嶽の頂上一帯に叢生せる「オホヤマレンゲ」の自生地は国家の至宝であるからこれを保存すべく  
県郡当局 から所有者天川村坪内区及び下市町の永田藤兵衛氏に承諾を求めたところいづれも保存の趣旨をよく諒解し快諾された、ことに永田氏の如きは「自己所有地にある草木が日本帝国の国宝として価値を有するとはこれ以上名誉のことはない、国家がこれを永遠に保存されんとならば喜んでその指定を仰ぎ国家の御用に立てられんことを希望する」と明言されたさうで  
保存事業 関係者の喜びに堪へないところで、本月末内務省で開催の調査会に附議され近く内務大臣の指定を受くるはずである、吉野郡にはなほこの外にカウヤマキの天生地、仏

教ヶ嶽のタウヒ林、トガサハラの原始林があつていづれも他に類例のない貴重なものであるが

私有地である、希くは国家のために今度その指定を喜んで応諾されんことを望んで止まない

・11月13日 県下の山岳を公園化する

・11月15日 大阪朝日新聞

おん祭ことしも盛大に挙行

近く解体修理する東大寺の南大門 柱の価値と仁王の大きさ

・昭和2年11月19日 大阪朝日新聞

龍田川 内務省から実地調査の回答

さきに県から申請した龍田川の名勝または天然記念物指定につきこのほど内務省から実地踏査をする旨回答があつた

・11月23日 奈良公園保存の声 寺院側に起る

・11月24日 大阪朝日新聞

散り残る紅葉を背景に若人ら勝敗を争ふ 春日野コート of 壮観 県下軟式庭球選手権大会

・昭和2年11月24日 大阪朝日新聞

仮殿におはす金剛山頂の葛城神社復興計画

金剛山頂南葛城郡葛城村大字高天村社葛城神社は維新前までは修験道の霊地として栄え雄略天皇御猪狩のみぎり出現した葛城に坐す一言主神を祭神とし、楠正成一族を配祀し後醍醐天皇からは御優詔さへ賜はっている著名な神社であるが、その後廢頽し社殿も山頂の強風にたふれて仮殿に御神体を奉祀し、氏子も昔からの大宿坊の主葛城家一戸しかない状態であるが、かゝる史蹟と祭神御事蹟の顕彰を忘れることは残念だとし、大阪、奈良その他近府県からの浄財を得て、約十萬円で復興すべく計画中でその上は社格昇進の運動もするはずだと

・昭和2年11月24日 大阪朝日新聞

木材移出税 十津川村が新設

吉野郡十津川村では従来徴収していた県税流木税、立木伐採税の附加税を廢し、明年度から価格に相当して徴収する木材移出税を新設することとなり目下その手続中である

・昭和2年11月26日 大阪朝日新聞

二重徴税の流木税 伐採税の軽減方を陳情

吉野材木同業組合では組合長前だ県議の名で流本木税が和歌山県と二重徴税されているから県から交渉し一方を廃止してほしいことおよび立木伐採税を千分の十一から千分の六に減額されたいと本県会に陳情することとなったが、木材市価の暴落で木材業者の倒産相つぐ現状でこの重課には堪へられぬといふのである

・ 11月26日 大阪朝日新聞

三条通り通過はそのまゝで 中央に提出された奈良軌道の敷設出願  
風致問題（連載記事である）  
遊覧客の優遇と風致保存を目的に 公園借地人が組合を作る

・ 11月29日 大阪朝日新聞

風致問題（連載）  
三万人を呑吐した日曜日の奈良

・ 11月30日 大阪朝日新聞

風致問題（四）  
公園を中に立場の違ふ公園課と警察署

・ 12月2日 大阪朝日新聞

風致問題（六）

・ 12月3日 大阪朝日新聞大和版

風致問題（完） 春日山の老木伐採 目の色を変へた保存論者 当局の考へは？

◇一の鳥居から奈良八景の一たる雲井阪附近までを例の市外電車をトンネルにせよとの意見はあんまり感心出来ない、むしろ絶対にいけないとはねつけた方がいゝ、菊水楼裏の通過も風致に関係があり、これをトンネルにせよといはなかつたのはなほさらいけないと保存論者はいふ

◇南大門東側の民有地は風致と特建（注、特別保護建造物のこと）で行きつまり、西側の勸学院内金鐘中学校舎は特建のたゞりで新築早々北西の方へ引くといふ騒ぎ、それなら先年東側の東大寺寺務所増築をなぜ許したか、矛盾はこゝにも現れている

◇先年起った大仏前の民家取り除き問題は東大寺の権限に属するがこれも風致関係がないとはいへない、西塔址買収思惑は風致で失敗し、大軌食堂南手の大民有地（元大阪加島屋所有）の県買収は金がなくて行き悩んでいる

◇風致上芝生保護で下駄履き登山を禁じている三笠山は由来いろいろの計画が絶えない、古くは山上に高塔を建てるといったり近くはエスカレーター、索道、自動車と登山計画が行はれ風致問題では内務省の決裁するといふ嚴重さ、その南麓に通ずる春日山一周の大道路は先年自動車の通路としてなほ危険を感ずるから取払げたいといったのに対し、県は風

致上その開鑿を不可とした、近来はどうしても狭いから取掘げてはといふ可能説が出ている、矛盾も撞着も猫の目にはかなはない

◇穿鑿すればまだ沢山あるがまづ一段落とし最後に奈良全市の高背景となっている春日山の風致問題を紹介しよう、春日全山の老木はもう樹齢が尽きている故に伐採して更に植えかへればよいといふのが林学者側の意見、これに対し千古斧を入れないこの霊山には他にみることの出来ない珍奇な植物（動物はまだ研究が進んでをらない）があり、それらを見無視して伐採するなどゝは以ての外である、たとへ枯れても倒れてもそこには千年のさびがあつて自然の風致を伴ふものであり、また風致上からいへば絶対禁伐論を唱へねばならぬとは植物学者や風致保存論者の意見

◇賛否はともあれ公園経営上春日の裏山を輪伐しているので大正初期の大風には風当りが強くテッペンの大木が倒れ歯抜けのやうになったのは今なほ眼前にみる事実である、これから考へると風致と営利がしっくり合はないことは丁度経済と道徳が適当に調和しがたいやうなものか、公園の風致問題は当局に然るべき確定方針のない限りいつまでもごたつくとみるべきであらう

・12月6日 クズの村(1)連載 12/7、12/8

・12月10日 大阪朝日新聞

神鹿の手柄 東京で大人気

・昭和2年12月10日 大阪朝日新聞

近く指定される 天然記念物と名勝地

従来内務省の管轄だった史蹟名勝天然記念物調査会は明年四月から文部省の管轄となるのでその最後の会議はこの十二、三日ごろ開かれるはずで内務省地理課では従来懸案となっている諸案件をこの際片付けるべく努力中であるが本県の分として今問題に上っているのは

天然記念物としては大山蓮華自生地（吉野郡天川、大塔両村）ししんらん着生北限地（吉野郡下北山村）妹山天然樹（同郡龍門村）の三つと名勝どろ八丁とである

大山れんげ、ししんらんの二つは三好、白井両理学博士が世界の珍宝だと推称したものであるが、この機会を逸するといつ指定をうけるかわからぬ状態にあり、かくては吉野群山を国立公園として指定をうける上にも支障を来す憂ひある上にさきに申請されている手続きには多少不備の点あり、また妹山もいつ伐採されるか知れぬ状態なのでぜひ今度の指定に漏れぬよう猛運動をする必要を感じ岸田県委員は過般上京、兒玉事務官、各調査委員に依頼した結果便法で取扱ふといふ言明を得、指定確実らしいといふ情報が県に達した、本月末決定発表されるであらうと

・12月21日 大阪朝日新聞

春日山の折損木に外科手術の準備

・3月20日 春めく奈良公園 日曜毎に大賑ひ

・昭和3年3月21日 大阪朝日新聞大和版

鹿害の賠償 市農会から要求

春日神鹿が餌を求めて市の郊外地へ農産物を荒しにゆくため、農家の被害は年々多額に上っている、市農会では二十五日午前九時からここ一年間の鹿害状況を調査し、神鹿保護会に対し賠償金を要求することになったがその額は約一千円に上らうと

・3月21日 賀名生梅林名勝に指定されさう

・昭和3年3月22日 大阪朝日新聞大和版

吉野鉄道終点から 黒門に至る新道路へ 桜樹数百本を植える計画

花の吉野山は吉野電車延長線が経営することになったが、終点から黒門に至る新道路附近は畑地や竹藪で桜樹が少く殺風景なので、こゝを美化すべく思ひついた大村祐氏は新道に沿ふ目貫の場所数町歩を購ふべく、吉鉄側へ交渉しすでに一千円の寄附を得たのを手始めに、附近各戸からもそれぞれ寄附を得てこのほど全部の買収ををへたので、右土地を直に保勝会へ寄附し同会ではこゝへ桜数百本を植栽した、数年後には電車乗降客は花トンネルをくぐることになる

・昭和3年3月22日 大阪朝日新聞大和版

梅の賀名生 探勝客で大賑ひ

吉野郡賀名生梅林は目下花盛りで二十一日の休みには非常な賑はひいを呈し、茶亭に絃歌の声があふれた、二十五日の日曜は名残の花を盛んにすべく保勝会員一同活気づいている

・昭和3年3月22日 大阪朝日新聞大和版

盛んに雇人を 雇ひいれる 書き入れ時を迎へた 市内の宿屋や料理屋

・昭和3年3月22日 大阪朝日新聞大和版

龍門村長後任 吉野郡龍門村では昨年十月から前菊岡村長の後任が決定しなかったが最近大字佐々羅阪本俊三氏が快諾したので近く正式選挙をすると

・3月25日 大山蓮華の記事、(1) ・3月27日 (2)

・3月28日 奈良公園にできるプール

・昭和3年4月4日 大阪朝日新聞大和版  
吉野国立公園実現の運動に三重県と提携する

・4月から 花だより

・4月12日 大阪朝日新聞  
お花見や社寺まいり 大和路に人足を誘ふ 奈良公園フヂの見頃 五月初旬から中旬へ  
今年も観藤会の企て

・4月13日 大阪朝日新聞  
金持ちの外人観光団 奈良見物に続々御入来

・4月18日 櫃ヶ嶽 岡本氏らが調査

・4月19日 大阪朝日新聞大和版  
大仏供養（一）金燈籠の前に五間四方の舞台 廻廊から南門へ庭幡五十本 何もかも大きい  
ものづくめ（連載記事）

・4月20日 大阪朝日新聞  
大仏供養（二）御本尊のお膳に四畳半も敷ける それに直径尺余の鉄鉢三十六面 御下賜  
の打敷と銀香炉  
公園で売る弁当優良なのは三割

・昭和3年4月21日 大阪朝日新聞大和版  
包含される百六十萬坪 奈良独特の美観地区 その中の建物は制限される  
奈良市都市計画の諮問機関たる地方委員会の組織命令は近日中に内務大臣から発せられる  
はずだが、奈良は自然の大公園があり史蹟名勝地、古建築物、優秀な古美術が無数に現存  
しこれらを保存し渾然たる美の都を形成するため都計法第十五條により美観地区が指定さ  
れることになる、美観地区は主務大臣が指定し地区内における建築物の構造設備又は敷地  
に関し美観上必要な規定を設けるもので、この地区内にある建築物、工作物、敷地などの  
構造、設備改変には私有物といへども県知事の許可を仰がねばならぬ、しかして公園地一  
帯が美観地区に指定された暁は市の全面積九百五萬坪中、公園、三笠山、春日山その他一  
帯を包含した百五十萬二千八百坪の大美観地区を形成することゝなると

・4月21日 大阪朝日新聞  
大軌東向終点 現在の倍以上に拡張する計画きまる  
大軌電車では奈良東向終点が年々乗降客増加し構内の手狭を感じていたが、この間の大雑

沓によいよ奮発したものか経費数十万円を投じ同構内の大拡張をすることに決定、近く県あて正式に手続をする模様である、新構内は現在の倍以上の広さとなし、現在の出入口を乗客入口としさらにホームを西に延長し、構内西外れの踏切よりなほ西方を買収してこゝに降車客出口を作ることとなるらしく、現在の踏切で構内を東西両部に分たれるらしい、これで今後の乗降雑沓はほとんどすっかり緩和されるはずだと

・4月21日 大阪朝日新聞大和版  
三百名の男女優が奈良公園で野外劇  
市川プロダクションが奉仕的に二日間一般に公開する

余興や催し物寛大に取扱付奈良署の取締り標準

・4月21日 大阪朝日新聞大和版  
郡山のメリヤス 輸出物に進展す 輸出工業組合設立の機運動く  
大和メリヤスの産額は年とともに増加し、その本場たる生駒郡郡山町附近では従来の内地向きから一步を進めてこのごろ輸出向きも製造している有様なので、今後大企業的組織に引直しさらに堅実な発展をさせるべく輸出工業組合設立の構想をすることゝなった、県の意向では起毛工場、晒工場、染色工場を設けさせ冗費を省いて能率をあげさせようといふにある

・4月21日 大阪朝日新聞大和版  
大和輸出織物 工業組合の設立 来月上旬に創立総会

・4月21日 大阪朝日新聞大和版  
御所地方の 織機界 沈静のドン底

・4月22日 大阪朝日新聞  
大仏供養（三）きらびやかな行列 莊嚴の大仏殿へ 現世に極楽の法悦を漲らす 法要と舞楽の順序

奈良を背景に林長二郎の活躍 「天平時代」のロケーション

・4月28日 大阪朝日新聞

大仏殿 天平文化と市制記念 七重宝樹や庭旗 大舞樂台 四間に五間の大國旗  
御大典記念事業

・4月29日 けふから吉野町 吉野神宮で祝賀式 阪本新町長の喜び

・昭和3年5月1日 大阪朝日新聞大和版

大台と大峰を中心に国立公園 設定の建議案を提出

・5月1日

あす始まる大仏供養 大掛りな準備整ふ

藤と八重桜

明日から大仏供養 天平当時をしのぶ盛儀 けふは市制記念の祝賀会

・5月2日 奈良の八重桜まっ盛り

・5月5日 大阪朝日新聞

お祭り騒ぎ終って天平気分愈よ濃厚 大仏供養、野外劇、講演、活動など  
奈良公園は夜まで賑ふ

・昭和3年5月6日 大阪朝日新聞大和版

新しき村支部 桜井町で例会

「新らしき村」奈良支部では二十七日午前十時から磯城郡桜井町皆化楼で例会を開催、左  
の件を附議する

奈良消費組合設立運動経過報告△日向新らしき村水路完成資金募集「講演と演劇の会」

開催の件△機関誌「協力」発刊の件

右終って「児童教育について」の研究会を開くはず

・5月6日 大阪朝日新聞

大仏供養 けふ愈よ結願 六百人の美々しき行列 公会堂から殿内へ練込む  
奈良をほめて 米國ホテル業者去る

・5月9日 国立公園奥吉野

・昭和3年5月11日 大阪朝日新聞大和版

#### 大和の山間部に生ふる珍しく貴き植物群落

室生の熱帯性羊歯を初め吉野群峰や大台ヶ原に種類多し

本県山間部における植物帯中には珍奇なものが多く、すでに数件は内務省の指定天然記念物となっているほどであるが、このほかまだまだ指定保存すべき必要のものがあり、現に仏生嶽のタウヒの原生林のごときはその準備交渉中であるが、さらに宇陀郡室生村室生山無明谷に群落をなし叢生している熱帯性羊歯類も当然指定されるべき性質のもので、植物宇陀郡室生村室生山無明谷に群落をなし叢生している熱帯性羊歯類も当然指定されるべき性質のもので、植物学者は早くからこれを提唱していたところ、指定の前提としていよいよ最近三好林学博士が来県、県調査委員岡本勇治氏と共に実地調査することになった

同地に叢生する「イヨクジャク」「イワヤ羊歯」「ハカタ羊歯」の類はジャバや九州南部に見うける植物で大和地方にも生えているのは非常に珍しいとされているものである

このほか吉野山中は珍植物の宝庫といはれ上北山村大字西原岩武山の高野槇の純林、釈迦嶽橡の鼻の高山植物の群落（このうち岡本勇治発見の吉野特産オホミネ小桜もある、釈迦嶽の代表的原始林、十津川上支流宇無川より釈迦嶽頂上にいたる）大峰山脈折掛八町の林相、川上村三の公川溪谷のトガサハラ（これは世界的の珍木）、大台ヶ原山牛石ヶ原トラノヲモミの林など保存撫育価値の絶大なもの十指を屈するに足り、一般植物学者から多大の注目を払はれている、右のうち大峰折掛八町のごときは吉野山から玉置山まで峰通り七十五靡きの間は、古来伐木厳禁した良慣習があり今後も十分保存すべきもので、これが指定実現の暁は延長十里、日本第一の指定区域となるであらう

・昭和3年5月11日 大阪朝日新聞大和版

#### 奈良名産 墨と筆 製造業者の話

奈良の特産として全国的に知られている奈良筆、奈良墨の近況を当面の製造業者についてきくと

製墨組合 では本年の産額（前年十月から五月（ま）でが製造期）は約八十余万円で最も景気の悪かった一昨年とくらべてはおひおひよくなってきている

近年の注文はみな小口になり仕入れを手控へていたが、本年はその反動で多少大口な注文があるやうになった、しかし大部分は依然下級品で中等品が一番売れ遠い、インクの脅威は考慮を要するが現在では不景気が禍するほどの影響をうけていない、喜ばしいのは支那朝鮮方面の需要が増加してきたことで、洋煙墨は見場がよいので一旦は購買者の人気に投ずるが質がよくないので長続きせず昨今は一ときのやうに隆盛でなくなったしかし奈良墨のほこりに籠り松煙墨を製造する業者間で、中等品以下を専門にしているものらは経営上かなりこれの威圧を受けているやうだ、また

毛筆組合 では昭和二年度の産額は五十五万円で前年より一割減、数量においてはさらにそれ以上の減少である

これは奈良筆として製造業者が品質を尊び声価を持続するために必要な

・昭和3年5月11日 大阪朝日新聞大和版

吉野の神宮 神殿と拝殿できあがる

吉野町官幣大社吉野神宮御造営工事は着々進捗し神殿及び拝殿はこのほど竣工した、全部節なしの桧造りで見るとに荘厳なものである、引続き附属建物の工事に目下着手中で今秋の御大典までに全部の竣工を終る予定である

・5月12日 指定されさうな地学上珍物 具留尊火山やドンヅルボウ 専門家が調査に来る (佐藤氏)

・5月13日 大峰の岩つばめ 天然記念物に指定の必要

・5月13日

てんでに打興じた観藤園遊会 (春日神社の保勝会主催)

・5月15日

大和独特の動物や名木 保存指定の調査始まる

・5月20日 袋角取りの神鹿殺し 続々検挙

・5月24日 神鹿の分娩期に注意なさい

・5月26日 桜井の新しき村の記事

・5月27日 珍木調べに三好博士が来る

・5月30日 大阪朝日新聞

京都奈良間に自動車道路 奥公園循環道路開設 近畿協会支部の計画

(前略) さらに多年懸案たる自然色豊かな三笠、春日山を廻遊する奥公園循環道路の開設を協会事業として実現し、大自然美に富める奈良公園に遊覧施設をなす計画である

・5月31日 大阪朝日新聞

公園奥山の廻遊道路 大軌と協力して改修

県公園課では大軌会社と協力して奈良公園奥山の廻遊道路を改修開鑿する意向あり、かねて同社に交渉中のところ三十日金森社長、種田専務ほか高級社員が来市し赤土内務部長、坂田公園課長、増田属らと自動車で实地視察を行った、この結果ははたしてどの程度まで改修に手をつけるか大軌側の肝がきまるであらうと見られている

・昭和3年6月1日

公園奥山回遊道路 改修費を大軌から寄附か

奈良公園奥山回遊道路改修に関し既報大軌側から金森社長、種田専務両氏、県から百濟知事、赤土内務部長、坂田公園課長らが三十日実地調査をしたが、大軌側も根本の計画には異議ないらしく、結局県へ右改修費十二萬余円を寄附し同会社の手で奥山の開発をすることになるものとみられる、改修予定線は延長六千間ありチョッと手を加へると有効幅員二間半にはなる見込みで、県ではこれを三期に分ち本年中に第一期工事鶯瀧までを実現したいといっている

・6月2日 経費三萬円で萬葉植物園 大典記念事業として 県社寺課が設置計画

・6月3日 三市の博物学会 聯合してけふ女高師で 講演と実地指導がある  
実地指導「春日山植物の研究」岡本勇治氏

・昭和3年6月8日

春日裏山の自動車道路 大軌の負担で着工

今秋御大典のみぎり大礼使の正式招待により外交団約百名が来県奈良の風光を賞する際ぜひ春日裏山を廻りたい希望があるにつきかねて、県公園課が大軌会社に交渉して改修したいといっている、同山回遊自動車道路計画は一日も早く決定する必要にせまられて来た折からいよいよ総工費十數萬円全部を大軌側が負担し近く設計着工をいそぐことに話がまとまる模様である、しかし時日がないので最初の設計どほり三期に分けた工事はできがたくとりあえず今秋のまに合せにカーヴの急な所や橋の架替など最も急を要する箇所を修理することゝなるらしい

・6月8日 神鹿盗み公判

・6月10日

餌差で誘って撲銃殺したと 神鹿殺し法廷で陳述 検事懲役一年の求刑

稀有の犯罪として世人を驚かせた春日神鹿撲銃殺犯、添上郡五ヶ谷村N甚九郎（五十三）T吉太郎（三十一）T亀吉（五十八）O忠太郎（四十一）四名の窃盗事件公判は九日午前十時三十分から奈良区裁判所寺田裁判長かゝりて開廷、珍しい事件とて傍聴席は満員、まづ事実証拠調べに入り裁判長の訊問に対し、被告らは

春日の神鹿でとってはならぬと知りながら狩猟が不猟勝ちなので鹿を殺す気になりました、大正十二年ごろから大抵春日山麓で野に出てくる鹿を餌差で誘って鉄の棒や鉄炮で撲銃殺し、肉はわけて食ひ皮は革して京都方面へ売っていました

と窃盗頭数を訂正したのみで、箱一ぱいに持ち込まれた鉄炮、銃砲、鹿の皮革その他多数の惨らしい証拠品について犯罪事実を全部認め、惨酷な殺鹿方法を供述した、ついで清水検事は

春日神鹿は古来神使として知られ、世界的に有名な奈良特有のもので人に馴れて危害を加へない、然るに被告らは数年間計画的に巧妙に犯行をつづけていた、犯罪事實は白白

によって明日で多年の犯行を暴露したものだ、本件は大きくいへば全村挙って鹿をとっていたものといへる単なる窃盗ではなく、珍重される神鹿を凄酷にも撲銃殺して盗むなど、は神を恐れぬ憎むべき行為で言語道断だと痛論して各懲役一年を求刑、午後零時五十分閉廷したが、公判廷は終始凄惨な情景であった、次回は二十一日弁論続行する

・6月12日 菩提樹と八房の杉 保存指定の出願

・6月14日 大阪朝日新聞  
奈良公園の行商人 免許を容易に  
三十万円かけて大軌終点の拡張 現在のホームは乗車専用 西方に降車プラット新設

・昭和3年6月15日 大阪朝日新聞大和版

一日二本づゝ枯れて行く 大神神社神山の立木 保護調査会で補植法考究  
山自体が御神体となっている磯城郡三輪町官幣大社大神神社の神山はさすが千古の美林で山容またおのづから崇高であるが、このごろ県社寺課で統計的調査を行ったところ、驚いたことには神山の立木が一日に二本強づつの割合で枯損して行くことが判明した、それも直径一尺以上周囲三尺以上の比較的大きい松樹なのである、自然の勢ひとはいへ毎日二本づゝも枯れては御神体の威厳上将来の大問題となるわけで、同社神山保護調査会でも熱心に研究し補植その他適当な方法を考究している、県当局の語るところによると『枯損木伐採の願ひが出るごとに実地調査をし、純然たる枯損木で伐るより仕方ないものゝみを許可しているのだが、それでも日に二本あたりとなるので当方でも今さらながら驚いている、禁足地以外の林地は入会権が認められてある関係上落葉を掻くから地肌が荒れ、肥料がなくなり多少土砂も流出して立木を枯らすものと思はれる、何とか考へねばなるまい』と

・6月17日 大阪朝日新聞  
奈良を喜ぶ遊覧客 春三ヶ月の数字 奈良駅、大軌終点下車だけでも 昨年より十一万人増加（貴重な統計記録である）

・昭和3年6月15日  
鶯瀧附近に新施設 大軌側の意向

・6月17日  
奈良を喜ぶ遊覧客 春三ヶ月間の数字 奈良駅大軌終点下車だけでも昨年より十一万人増加

・6月19日

学究的立場から回遊道路に反対 春日山の植物群落 保存を脅かすものだと  
県公園課が大軌会社と協力して春日山回遊自動車道路をひらきさらに客足止めの諸設備を行はんとすることは、奈良に来る遊覧客を一時間でも長く市内にとどまらず方便となるほか、奈良公園特有の美しさを味はせるため適当の計画だとその実現を期待する向きが多く、大軌との交渉も日々進捗している折から、純然たる学究的立場からこれに反対せんとする向きが現はれ、近くその猛運動前提として上京本省に陳情せんとまでいきまいているものも、反対の理由ハ春日山一帯は内務省指定の名勝地である上に原始林として天然記念物の保存指定区域ともなつてをり、植物学者が垂涎おく能はぬ貴重な植物群落をなしているため、これが繁茂状態を脅かす近代施設には絶対反対するといふにあり、岡本天然記念物地方委員のごときは本月上京し三好、白井両博士らに交渉し反対熱を高めるといっている  
公園課の意向

別項一奈良公園春日裏山回遊道路改修につき学究的の反対はあるも県公園課では「現在の道路を多少改修しまたは供料を架替する程度で名勝または保存指定の異議に反する様な施設をするのではない」といっている

・6月20日 死鹿を売って供養塔を作る 収容所と角伐場も設置

・6月21日 大阪朝日新聞

奈良公園に住む三つの珍動物 桑野教授が発見研究

(記事は山ヒルとモリアオガエルとルーミスジミの3種)

・6月27日 大阪朝日新聞

公園にボンボリ 猿沢池に大噴水 日曜日の夕に花火打揚げ 奈良実業協会の納涼施設

・6月28日

国立公園候補地を熊野まで拡張

・7月4日

時を得顔の 大和の山々 群生せる珍奇な植物 登山案内や採集禁止の宣伝  
登山シーズンが来た各学校、山岳会一般登山者はすでに用具をととのへて梅雨明けを待ち焦れ

吉野群峰の自然美 岸田英夫氏談

既報＝三重県南牟婁郡木の本町ではこのほど町民大会まで開き、木の本、新宮、勝浦、那

智山一帯を吉野国立公園区域内に拡張追加の運動を起し、本県側もこれを諒とし協力して吉野国立公園実現に努むる打合せが出来たが吉野山岳会岸田英夫氏は語る

吉野群山の誇りはその深林美、岩石美、峡谷美にあつて、未だ斧鉞を知らぬ太古そのまゝの原始林が鬱蒼と繁って神秘そのものの如き偉観を呈していると共に、大自然の彫刻の弔妙をきはめた巨岩が天地に連立した大奇観と清冽玉の如き流れに現はるゝ岩石美とにあると云つてよい、すなはち天然記念物の豊富な名山で京阪神に□□しているから登山者は年とゝもに激増し、やがて公園実現の暁□□の設備を完全するに至らば自然に慰めを求める都人士の一大娯楽場たるに恥ぢないやうにならう、しかるに国立公園候補地はどうやら七ヶ所だけ決定し、我が吉野候補地は選からもれさうや模様となったから、この際期成同盟会の活動は勿論、実現の暁直接間接利益を蒙るべき地方民らが大に力瘤を入れて運動するの必要がある

・7月5日 旧馬場跡に神鹿収容場 角伐場をも併設する

・7月5日 大阪朝日新聞

春日山に市内林間学校 廿五日から虚弱児収容

・7月11日 大阪朝日新聞

奈良公園（芝生の記事）

・昭和3年7月13日

肌涼しき吉野群峰に 大山蓮華まつ盛り 白花谷間を埋めて清香蕩る  
下界の酷暑にひきかへて吉野群峰は足袋そへて袷ほしいばかり、しかも珍木大山蓮華の霊花が仏経ヶ岳から南、明星嶽附近にかけ広さ十町余歩にわたって今満開の美観を呈している、遠くから見れば谷間を埋めて白く、近よれば清香惜しげもなく満ちて仙境を思はせ、夏期登山者の極楽境を示現している

山上ヶ岳附近で 珍植物三種 岡本氏が採集中に発見

県天然記念物調査委員岡本勇治氏はこのほど京都帝大植物学教室学生数名を实地指導のため吉野群山に植物行脚を行ったところ、僅か二日間の採集で山上ヶ嶽附近でまだ学界に発表されていぬ珍植物三種を発見したので、目下岡本氏が研究中である、このほか同山系にはまだまだ多数の未発表植物があるらしく、前記三種もかなりの群落をなしていたのに今日まで知られなかつたほどだから、今後数次の实地踏査と研究とにより斯学界の秘庫は漸次開かれようと期待される

・7月13日

今年生れた 春日の子鹿 百二、三十四

・7月14日 大阪朝日新聞

貴賓を喜ばす軽快なドライブ 御大典まで竣工さす 春日山回遊自動車道路  
ボンボリとぼる 十五日には煙火打揚げ 奈良公園の納涼施設

・7月19日 大阪朝日新聞

神鹿収容所跡に萬葉植物園 設置するなら敷地を 春日神社から提供

・昭和3年7月21日

葛木神社大祭 金剛山頂の葛木神社では二十三日夏季大祭を執行、参拝者に虫除け守を授  
与する

・7月21日 大阪朝日新聞

萬葉植物園に動物も蒐集 構内を庭園に仕立てる

・昭和3年7月24日 大阪朝日新聞

珍しい しゝらんの群生 水分神社境内で発見 県へ天然記念物指定申請  
(上北山村小椋のシシンランを岡本勇治が調査)

・7月24日 大阪朝日新聞

春日裏山はまったく絶勝 外国使臣接待につき視察した相馬式部官談  
奈良公園の特色をラヂオで放送

・昭和3年7月25日 大阪朝日新聞

中越林学士を請待 内務省衛生局技師中越林学士は先年吉野郡山伯母ヶ峰から大台ヶ原へ  
峰通りを敢行しさらに大杉谷峡谷を調査した人で、吉野国立公園実現のためにはなくては  
ならぬ関係にあるので、大和山岳会では今夏同氏を吉野、熊野方面実地踏査のため請待す  
ることゝなった

・7月29日 大阪朝日新聞

春日山回遊ドライブ・ウエーいよいよ着工

・8月11日 曾爾の屏風岩は火口壁の残部 岡本調査委員の談

・8月12日

番犬を使って鹿害の取締り 神鹿保護会できまる

・ 8 月 16 日

専門家が驚喜するイヨクジャク 三ノ公流域で発見

世界的にめづらしいとされている「トガサワラ」が吉野川上流三ノ公川峡谷に繁茂しているので、天然記念物の指定をうくべく県ではかねて臨池調査を申請中のところ、十日内務省から理学士本田正次氏来県、県史蹟名勝天然記念物調査会委員岡本勇治、岸田日出男氏とともに同地に赴き三ノ公川峡谷を分け入って調査中、その支流の一谷においてはからずもまたもや世界的珍植物と称される「イヨクジャク」を岡本氏が発見、一同を驚喜せしめた、本田氏などはその名もなき一谷を岡本谷と命名しようと主張したほどである、「イヨクジャク」は世界中かつて伊予の国に天生したが、その後大正十一年室生山で岡本氏がこれを発見して有名となり、三好博士がそのためわざわざ来県するにいたったほどのもので、これで二ヶ所で見うること同じになったのである、なほ「トガサワラ」は三ノ公峡谷の右岸一帯数百町歩にわたり亭々として一大壯観を呈し一行を恍惚たらしめた

・ 8 月 18 日

鹿追ひに番犬で訓練

・ 8 月 19 日

自動車六十台を連ねて春日奥山廻り

・ 8 月 22 日

吉野群峰で珍奇な樹草 本田博士らが発見

吉野群山植物調査の内務省囑託本田理学士一行は左の樹草を発見した

吉野郡川上村柏木対岸役の行者投げ地藏境内の有名な「三宝ケヤキ」を調査の結果地上二尺のところ周囲二丈八尺三寸、同七尺のところ北方の枝一丈三尺五寸、南方の枝一丈一尺五寸、西方の枝一丈六尺五寸、高さ目測百尺

釈迦ヶ嶽における垂直的植物分布の原始状態調査の結果、旭川大峡谷中宇無の川と旭川の合流点までの下流で「ツラハグサ」「ホソバヨメナ」「アサヒエビネ」の三珍草を発見

「ツラハグサ」は日本にのみ生ずる禾本科植物で僅かに二種あるのみ、現在箱根と相模の大山と埼玉県長瀬の三ヶ所に発生するも旭川よりは少いさうである、「ホソバヨメナ」は先年小泉博士が瀬八丁で発見したのみである、また「夏エビネ」の変種があり、普通のそれよりは花色が非常に美しく全く新種であるので本田理学士は「アサヒエビネ」と命名した

三の公のトガサハラ 世界一の偉観

内務省囑託本田理学士、岡本、岸田両調査員一行は吉野郡川上村三の公溪谷のトガサハラ原始林を視察して二十一日県庁に帰った、釈迦ヶ嶽の垂直植物群落は雨のため調査不能となったそうだ、本田理学士は語る『トガサハラは世界的の珍木で四国にも自生しているさ

うだが恐らくこゝには及ぶまい、広さ五、六百町歩にわたり幹囲平均七尺の大樹がかくも立派に繁茂していることは世界の驚異である、この木は明治二十三年白澤林学博士によってはじめて本県で発見されたのだから何といても本県が元祖で、量においても世界第一の産地である、樹齢は大たい七八百年だらう、種が落ちて実生が多く出ているから適當の保存方法さへ講ずればますます繁茂しよう、地主も諒解してくれて内務省の指定となれば学界の幸福この上もないことである、指定したいと思ふ場所はその一部にすぎない』

・8月22日

はなしのたね

◇吉野の山中に珍草奇木を探る本田理学士一行中に大安寺の岡本勇治君がある、去る十六日近年まで人跡未到といはれていた旭川大峡谷の露营地に生命から二番目の大事な大事な唐縮緬の風呂敷包を忘れ、中ノ川の県有林事務所に着いてから突然「唐縮緬の風呂敷包がない」と耳をつんざく奇声を出したので一同びっくり

◇人夫は丈なす雑草地をわけて逆戻り一さてその唐ちりの中に何が秘められていたか一行は生命からがらの探検中「唐ちり事件」として忘れられないものゝ一に数へている

・8月26日

実に渋のないカヤの珍種 宇陀郡政治村で発見

天然記念物調査会委員岡本勇治氏はこのほど宇陀郡政治村で榎の珍種を発見し、これをシブナシカヤと命名した、普通の榎と違ひ採取した実は渋ぬきせずともそのまゝ食へるもので、土地では白米榎と呼んでいる、恐らく天然変種したものとみられ岡本氏は細密な調査をとげ、近く植物学界雑誌に発表して学界に報告すると

室生山中のイヨクジャク 岡本氏が調査

宇陀郡室生村室生山中に群生するイヨクジャクは日本における群落として唯一の立派なものなので、吉野郡上北山村トガサワラ純林、宇陀郡曾爾村具留尊火山群とともに天然記念物として内務省の指定をうけるべく、二十六日から岡本県調査委員が同地に出張、実地調査と実測をすることゝなった、イヨクジャクは十年ほど前奥平幹一氏により伊予国岩屋山ではじめて発見されたものだが、附近の樹木が伐採された結果日陰がなくなり、折角の珍草も根絶し大いに憂慮されていた矢先岡本氏が前記室生山で発見したゝめやかましくなったものだから、内務省の指定も問題なく進捗するものとみられている

・8月27日 大阪朝日新聞大和版

大塔村の珍植物採集に岡本氏が出掛ける  
(篠原など)

・8月29日 昆虫中の珍種 ルーミスジミ春日山に多数棲息

・8月30日 角切り復活

・9月4日

奈良県の特異性たる珍植物の群落

それを網羅する大研究調書を完成する岡本氏の企図

本県内に生育する植物中には日本は愚か世界に誇るべき珍物が多く、このごろそれが一層多く発見される有様で吉野群山だけでも著しく特徴のあるもの数百種に上る見込みである、しかもこれらは他府県のと趣を異にし極端に繁茂群落をなし、従って分量においてもはるかに他地方を凌ぐ特別地位にあるので、今日までこれが採集、研究に尽力して来た岡本県天然記念物調査委員は本県斯界の現状をことごとく網羅した大研究調書を作り従来史蹟方面を主として来た県の報告書に異彩を放たふと計画中である、なほ本県には妹山、室生山、春日山など古社寺関係の樹叢が多く社寺と植物の特殊関係も認められるので、これらを検討して調査報告中に記録するはず

釈迦ヶ嶽の大群落 指定地として保存

最近植物学界からやかましくいはれ出した吉野群山釈迦ヶ嶽附近の旭川上流宇無の川と中の川合流点より山頂にいたる約四千尺の高地に生ずる垂直的植物分布は斯学者の垂涎おくあたはぬもので、草木の原始的生態が珍重すべきばかりでなく、個々の植物でもカウヤマキ、トラノヲモミ、イチイ、カヤの自然林および九合目上におけるダケカンバ、ミヤマモミヂイチゴ、岩石地帯のコメバツガザクラ、コケモモなどの大群落は実に得がたき珍品といはれ出した、政府ではこの地を天然記念物指定地として保存したい意向ですゝめているが、該土地所有者下市町永田藤兵衛氏はできるだけ政府当局の意に応ずるとの口吻を洩らしている模様で、この奉仕的提供により本邦はじめて見る大面積の民有指定が近く発表されることにならうと

・9月5日 大阪朝日新聞

鶯瀧までの春日山四十町に電燈を架連ねる計画

・9月6日

大峰と金剛天然林調べ 大河内技師が一ヶ月に亘って 一木一草を記録して帰る

珍奇な植物の多い大峰山、金剛山などを管内にもつ奈良営林署では三ヶ年継続事業として管内天然林二千三百町歩にわたり、開闢以来一度も行つたことのない植生分布状態、樹木草類の種類、樹勢などの総括的調査を断行することに決定、先づ本年度の第一次計画に着手し同署大河内技師は八月一ヶ月間を費し、山から山へ山を越え、谷をわたり、一木一草に至るまで記録に止め樹草の分布踏査ををへて三日下山帰庁した、同調査によって新に珍植物や集団、密生、点在状況などが多数発見された、これによって一々植物の標本を蒐集することになっている

大峰の準高山植物 一時に咲き乱る

別項、大河内技師が調査してきた結果、大峰山に生育する植物中、下界の平地林に見られぬ準高山植物ともいふべき珍しい植物を列記せば左の通り

ヤブレガサ、トリカブト、ツクバネグサ、キンレイクワ、オホカメノキ、ゴトウツル、ヨブスマソウ、グレマムグラ、ツガザクラ、タカネママコナ、ツベメオモト、キンバイソウ、ミヤマハナゴケ、イハナシ。キバナシャクナゲ、ハリブキ、ゴゼンタチバナ、エンレイソウ、バイケイソウ、イハオトギリ、コケスギラン、マンネンスギ、イハカガミ、クルマバナ、キツリフネ、グンナイフウロ、シモツケソウ、ヲガラバナ、コバノトネリコ、ミヤマウグイスカグラ、シモツケ、カンカウモリ、ヤグルマソウ、ヒメシャジン、クカイソウなどで開花期には紅紫とりどりの高嶺の花が一時に咲き乱れ、お花畑の美観を呈するさうである、なほ金剛山は樹木の種類が多く、大峰山は草花類が非常に多いと

・9月5日 鷲瀧までの春日山四十町に電燈を架連ねる計画

・昭和3年9月9日 大阪朝日新聞  
シブナシガヤは植物界の珍物 新学名を附して学界に発表

・9月9日 大阪朝日新聞  
公園に記念樹

奈良実業協会では七日午後七時から役員会を開き、会が斡旋した奈良名産商組合不成立及び鉄道運輸委員会等に関する報告、御大典記念植樹として公園に名木八重桜、楊貴妃、全市各戸に記念樹植栽のこと及び西国三十三ヶ所出開帳声援（奈良寺院側から状況聴取）等を委員附託とし散会した

・昭和3年9月11日 大阪朝日新聞大和版  
史蹟探勝会組織 社寺課の計画  
解体し終った東大寺南大門 大かゝりな修繕工事 完成は昭和五年二月  
奈良の納涼終る

・9月19日  
春日山自動車道路来月末に完成  
御大典に参列するほか外国使臣の来遊をひかへている奈良春日山回遊自動車道路開鑿工事はすでに橋梁、暗渠、土管理設を終り路幅拡張、屈曲整理も八分どほり終って砂利敷き、路面整理を残すのみとなった、来月末には全部完成の見込み

・9月19日 大阪朝日新聞大和版  
公園の指導標

・9月25日 大阪朝日新聞

御大典と奈良県 秋は遊覧客例年より多い 快く行楽させやうと奈良署で親切係増員  
春日奥山に二つの水船 北朝の年号が刻してある 史蹟指定の手続き

・9月27日 大阪朝日新聞

奈良公園の電燈を増燭する

・昭和3年9月27日 大阪朝日新聞

あす開かるゝ史蹟委員総会 問題揃ひで緊張しやう

・昭和3年10月2日 大阪朝日新聞

新しき村の公園と劇 七日公会堂で

・10月2日 大阪朝日新聞

若草山三重目の頂上に古墳三個 古墳末期時代のものか

・10月11日 大阪朝日新聞大和版

春日奥山を走る三里の廻遊道路 二十日に工事出来上る

御大典に参列するほか外国使臣の来遊をひかへている奈良春日山回遊自動車道路開盤工事はすでに橋梁、暗渠、土管理設を終り路幅拡張、屈曲整理も八分どほり終つて砂利敷き、路面整理を残すのみとなつた、来月末には全部完成の見込み

・10月11日 大阪朝日新聞大和版

嫩草山登山者に草履を貸さう

・10月13日 大阪朝日新聞

知事官舎の門柱地下から古代土器発掘

・昭和3年10月24日

神鹿を分譲 鹿島神宮へ

・10月31日 大阪朝日新聞

御大典拝観客を奈良へ引寄せる 福引や鹿寄せの企て  
春日奥山周遊道路四日開通式

・11月6日 大阪朝日新聞

春日奥山廻遊道路 盛んな竣工式

・12月3日 大阪朝日新聞

鶯瀧から大原橋まで風致地帯とする 楓樹植込みの計画

・12月9日 大阪朝日新聞

桜のトンネルを公園に作る 興福寺から一ノ鳥居まで 奈良実業協会が植栽

・12月15日 大阪朝日新聞

台湾に注文した南大門の用材 年内には京終に到着

奈良公園を舞台に入園した映画俳優 ことしは既に凡そ九千人 遊覧客「立ち見」も始まる

・12月22日 大阪朝日新聞

春日山廻遊自動車 三月ごろ開始

昭和5年

昭和5年大阪朝日新聞大和版・奈良版（5月1日より）

・昭和5年1月21日 大阪朝日新聞大和版

昨年度の養蚕 八百二十三万三千円 前年度より九十八万円増

・昭和5年1月21日 大阪朝日新聞大和版

大神神社椎の純林

官幣大社大神神社御神体たる三輪山の一部に生ふる椎の純林は広さ三、四十町にわたり全国における椎の木の各樹種全部を含んでいるほか、かゝる純林は各地とも減少して行く傾向にあるにもかかわらず、信仰の背景をもって今日まで完全に保存撫育されている珍しい林相として、これを天然記念物に指定する価値を認め、岡本県調査委員は二十日実地調査することになった

・昭和5年1月21日 大阪朝日新聞大和版

名物三輪索麺3

・2月8日

仕掛花火や野外劇的一幕 三笠山焼きの余興もり沢山できまる

十一日夕刻から行はれる奈良三笠山焼きの余興は、左のとほり決定した

当日午後一時から山麓で鹿寄せ（午後三時と二回）△火難除御守授与△福引（金幣、銀幣、奈良土産など）△蜜柑まき（午後二時）△登山競走（午後三時）△打上花火△夜は仕掛花火（大阪、奈良、桜井各地方の仕掛花火競技）

しかして午後四時からは市川右太衛門プロダクションの男女優四十名出演の大野外劇「血煙高田馬場」を公開し、見物の足を引かうとの趣向である

・2月11日 山焼きの後で三笠山がお化粧 地肌を決して見せない様によい芝生で包んで

・2月12日 山焼きは延期 十五日行はる（降雪積雪のため）

・2月13日

今度は地下索道で 三笠山の登山用に新手の出願

奈良公園三笠山の頂上を目ざしてエスカレーター、インクライン・エレベーター、高架索

道などの企業をもくろんだものがさきに数件あり、いづれも有耶無耶に終わったが、十二日またまた新手の出願、三笠山地下索道の敷設許可申請書がその筋へ提出された、建設費三十五万円で同山内に地下道を設け、昇降機により山頂まで旅客を運輸するのが目的で延長一千四百尺である、県では内容につき十分詮議するはず

・昭和5年2月13日 大阪朝日新聞

春日山の珍蝶を 天然記念物に指定か 内田博士はこの下調査

・昭和5年2月13日 大阪朝日新聞大和版

吉野山の桜に施肥 地許総出で

県営吉野山公園の桜樹保護のため県公園課では十三日全山地区にわたる施肥デーを催す、当日は吉野山の民家各戸から人糞数百荷を担ぎ出し区民総出で施肥するのである

・2月16日 観光団で賑ふ春の奈良

・2月25日

春の装ひに忙しい奈良公園 三笠山の桜も今年は美しからう

麗光ゆたけく春来る一県公園課では宇内の勝地奈良公園の春装を引受けてあまりに広い全地域の手入に日も足らぬ有様で、県常備人夫が毎日克明に樹上の糞虫をむしり採り、あるひは松毛虫の退治に隠れた労苦を重ねている、また三月一日から二十日までは公園を生活の糧とする行商人百六十名の免許更改受付、遊芸稼人、写真撮影人の許可詮議をなし市内宿屋、名所案内人組合も春の団体客を待ちもうけて漸く活気横溢の態である、公園そここの梅は今盛りとなり、つゞいて桜もふくらみさうな暖かさだが、今年の花時は三笠山三重目裏手の桜地帯が全部美化をつけ、同山麓に移植の染井吉野も興福寺境内に補植の八重も本調子の開花となるから、四月の眺めは一層だらうと公園課でも期待している

・2月25日

馬鹿にならぬ鹿の稼ぎ高 見物人に払はせた三万七千円の糠煎餅

奈良名物の一つとして遊覧客の愛撫に慣れた春日神鹿約一千が、一ヶ年（昭和三年度）間に与へられた糠煎餅は七百十八万枚、この代金三万五千九百円で、一疋一日平均ざっと二十枚、十銭を食った勘定になる、しかし鹿はそれだけ奈良市のために食ひ稼いでいるわけで、ほかに各種旅行団体の鹿寄せでも百九十四回で千七百六十円を儲けている

・2月26日 三笠山登山を随時禁止する 芝生の保護に悩んだ県公園課の非常手段

・3月1日 南大門の写真

・3月2日

梅たより

『春もやや景色とゞのふ月と梅』—芭蕉—ことしぐらい早く春が来たことは珍しい、いつもなら月の半ばから月ヶ瀬、賀名生の梅が見頃となるのにことしはもう咲いている、平地では今紅梅が真盛りである、林和靖の『疎影横斜水清浅、暗香浮动月黄昏』の名句通り水もあり月もあり、月ヶ瀬は今しばらくは遊びどころ

・3月2日

賽郭翁の 薬園を保存 松山町を中心に具体化をはかる

宇陀地方は県下の高原地帯で養蚕は信州地方に劣らない、一方植物も種々の薬草を自生し、享保年間には有名な本草家森野賽郭翁を出したところ、現在でも胃活、中将湯、命の母、藤澤樟脳などといふ日本売薬王の出身地である、賽郭翁には松山本草数十巻の著書があり、今なほ内務省から指定された立派な森野薬園を遺している、薬園は名物吉野葛の本家森野家の屋後の山を拓いたもので、一町数段歩もあらう、種々珍奇な薬草木その他を植栽し、日本に三本しかない名木「花の木」の大樹もある、「花の木」は岐阜、滋賀、本県のみ産し、世界では日本と米国カルフォルニア州にだけ現存する珍木で、イテフの如く雌雄に分れているから、ただ全国に三本では繁殖の道もないらしい、今回松山町では同園保存の方法として保存会を起し、町予算にも千数百円を計上してをり、総額二万円もあれば遺物保存、手入れ方法なども十分行届かうといふので、地方史蹟調査員で植物通の岡本勇治氏らも参加し、目下熱心に右保存計画が進められている、(写真は薬園内の賽郭翁夫妻を祀る祠堂)

賽郭翁の  
薬園を保存

松山町を中心に  
具體化をはかる



宇陀地方は縣下の高原地帯で養蚕は信州地方に劣らない、一方植物も種々の薬草を自生し、享保年間には有名な本草家森野賽郭翁を出したところ、現在でも胃活、中将湯、命の母、藤澤樟脳などといふ日本賣薬王の出身地である、賽郭翁には松山本草数十巻の著書があり、今なほ内務省から指定された立派な森野薬園を遺している、薬園は名物吉野葛の本家森野家の屋後の山を拓いたもので、一町数段歩もあらう、種々珍奇な薬草木その他を植栽し日本に三本しかない名木「花の木」の大樹もある、「花の木」は岐阜、滋賀、本縣のみ産し世界では日本と米國カルフォルニア州にだけ現存する珍木で、イテフの如く雌雄に分れてゐるから、たゞ全國に三本では繁殖の道もないらしい、今回松山町では同園保存の方法として保存會を起し、町豫算にも千数百圓を計上してをり、總額二萬圓もあれば遺物保存、手入れ方法なども十分行届かうといふので、地方史蹟調査員で植物通の岡本勇治氏らも參加し、目下熱心に右保存計畫が進められてゐる。(写真は薬園内の賽郭翁夫妻を祀る祠堂)

大阪朝日新聞大和版昭和5年3月2日

・昭和5年3月5日 大阪朝日新聞大和版

吉野群峰だけでは資格はない 国立公園請願から帰った岸田英夫氏の話

・3月6日 荒らされた春日山のお手入 原始林美を損はぬやうに独特の樹木を植えて

気に入った猿沢池の柳 奈良を語る鍋木清方画伯

・昭和5年3月8日 大阪朝日新聞大和版

#### 公園諮詢会

県公園課では如何にして奈良公園をよくすべきかにつき近く公園諮詢会を開き意見を求めることに決定した、提出事項左のとほり

春日山周遊自動車の乗入制限△同廻遊道路沿線の風致的施設△鶯瀧附近の遊覧客休憩所設置△浅茅ヶ原に貫通水路を開設して水に乏しい公園の風致を添へること△三笠山芝生保存

・3月8日 大阪朝日新聞大和版

今から待たれる 郡山の夜ざくら 保勝会の組織をかへ うんと宣伝する

郡山町保勝会では今回組織を変更し全町から各方面の人達を会員に網羅し、従来の城跡桜花以外に同町の名所史蹟の顕彰と保存に一層の力瘤を入れるべく、全町にわたり会員を募集中のところ参加会員約二百数十名に達したので、七日午後二時から町公会堂で新組織第一回の総会を開催し、会長に片山町長、副会長に谷田助役及び幹事十数名を推挙してのち目前に迫った城跡桜樹開花時の準備について協議した、城跡桜樹に約一万個の電燈を取りつけるほか、道路や桜樹の間に大小のぼんぼり二百余個を立て大アーチを二三ヶ所に拵へて花のとんねるを現出せしめる、一方同会では例年の通りハンケチ、手拭ひ等に例の懸賞当選俗謡を摺り込み、場内で販売するほか無料休憩所の設置、団体その他の大宴会場の完備等や、明年度において西方の新開地へ桜樹を植栽すると

・昭和5年3月20日 大阪朝日新聞大和版

山口神社のつるまんりょう新に発見

珍植物として学界から珍重されている「つるまんりょう」が吉野郡龍門村山口神社境内に自生していることを最近岡本県天然記念物調査委員により発見された、同植物は従来全世界中で吉野郡龍門村妹山大名持神社境内、同郡小川村官幣大社丹生川上神社境内および鹿児島県屋久島尾間（正宗巖敬氏発見）の三ヶ所に僅かに自生していたのを知られるだけで、今回の発見により四ヶ所となった、岡本氏の説によると、往昔吉野川地溝帯に多数自生していたものが漸次廃絶し、信仰を背景とした前記古い神社境内のみに残存したものだらうと

・昭和5年3月22日 大阪朝日新聞大和版

金剛山頂に天然植物園を造る 同時にスキー場も設けたい 葛木神社の意向  
楠氏の古戦場金剛山は一面徳川時代の薬草採集地としても有名で植村佐平治、森野賽郭ら  
が採集した歴史あり、金剛採薬記の古文書もあるほどで現在も同山独特の植物として

金剛ぶし、金剛こぶし、金剛笹、金剛まゆみ、やまとぐさ、金剛ぐみ  
などの珍植物が多数自生しているに鑑み、山頂葛木神社の古社家葛木貢氏はこゝを天然式  
の植物園に仕立てるべく計画をしたので、岡本天然記念物調査委員は二十五、六日ごろ登  
山実地調査の上プランを立てることに内定した、大体の計画によると珍植物群落地点へさ  
さやかな新道を設け、標識を立て足下の展望に便するスラブ式休憩所の設置その他で、冬  
は約二尺の積雪あるを幸ひ斯界の権威者に委嘱してスキー場をも設けようといふのである

・昭和5年3月22日 大阪朝日新聞大和版

又も発見された鈴蘭の自生大群落 一部を保育地として他は都の人に鈴蘭狩をさせる  
昨春はからずも宇陀郡三本松村大字向淵をはじめ山辺郡都介野村大字南之庄以南の英雲安  
山岩地帯に点々として珍らしい鈴蘭の自生大群落が発見されて以来、一躍「鈴蘭の村」と  
のやさしい異名を馳せたが、その後岡本県天然記念物調査委員らの手によって

宇陀郡榛原町地内貝ヶ平山△山辺郡東里村無山△宇陀郡松山町から磯城郡桜井町にい  
たる間女依峠の峰つづき五貫山

の一带にもまた大群落あることを発見され、かく多数が暖地の和に自生する珍現象は学  
界の好話題となり、県ではさきに知事の名で仮指定の保存手続きをとったが、来るべき春  
の開花期には文部省から三好博士来県実地調査をなし、いよいよ文部省本指定として保存  
撫育されることになった、しかし自生地を全部を指定することは産業上支障を来たすので  
重要な一部に止め、他の自生地は地元町村の要望もあることとて新案「鈴蘭狩」を催して  
土地の発展策にすることとならう、本県の鈴蘭は本場の北海道産よりもはるかに香気高く  
都市の俗塵をさける人たちを多数迎へるだらうと期待されている

・昭和5年4月8日 大阪朝日新聞大和版

九重ざくら今が見頃

・4月9日 国立公園としての大台ヶ原の施設 内務省衛生局の調査

・4月11日 下の千本の写真

・4月12日 春から初夏へ登山を禁止 公園諮詢会へ出す三笠山の芝生保護策

・4月12日 高野槇を指定保存

・昭和5年4月13日 大阪朝日新聞大和版

容易に揺がぬ根本方針をたてる 春日山原始林保存管理方法につき一

役人は変っても方針は変へぬ様に 笹井知事の意見

一時文部省をはじめ学界の重要問題として論議された奈良公園春日山原始林保存管理問題については、その後自動車周遊道路改修跡始末として破壊された箇所は復旧工事を行ひ、大体において火の手は納まったものゝ如くであるが、笹井知事の意向では

県の首脳者たる知事、関係各部長らの更迭ごとに管理方法、施設意見が変るやうでは天下に誇る春日山もよい迷惑だから、かういふことに禍されぬ永久的な県の根本方針を確定しておくことが急務だ

といふにあるらしく、その見地から近く開かれる公園諮詢会と関係して別に学務部関係の史蹟名勝天然記念物調査委員会を十六日ごろ開催し、根本案を練るはずで学務部原案では

入山自動車の回数、車体の大きさ、入山時間、料理屋、旅館経営などに関する諸制限、夜間照明の制限、植物採集および伐木その他天然更新、施業方針の確立

などをはじめ大調査機関を設けて、保存管理の萬全を期せんとするにあるらしい、右につき笹井知事は語る

同山に対する意見は不定多数の各個人によって異なるが、一々それに従ふこともできない、これを利用者の側から見れば自動車を通す以上は現在のまゝでは路幅が狭いとか、カーブが多くて危険だとかいふであらう、保存者側では理想としては何人にも一歩も入山せしめないのがよいといふであらう、県の総合的の代表意見を作るにはさうした各種の関係上実にむづかしい事情がある、そこでひとり県のみでなく庁外関係者の意見も聴いて、たとへ役人の顔が変っても方針だけは変らぬようしておきたいと思ふが、学務部原案はまだ見ていない

・昭和5年4月13日 大阪朝日新聞大和版

花の吉野に渦巻く人波

吉野山の花会式は、十一日十二日折柄の快晴に恵まれて頗る盛大に執行された、桜本坊より蔵王堂まで古式練行列が稚児、兎踊りの趣向を加へ本堂に練り込んだ、今を盛りと咲き競う花の全山は両日とも観桜客で雑沓した

・4月13日? 国立公園の建議は保留 四都連絡協議会

・4月16日

奈良公園に水景をつくる あれかこれかと県公園課で立案中  
折角の天下の名園に水がないとは奈良公園を愛する人たちがつねに嘆いているところなので、県公園課では近く開かれる奈良公園改良諮詢会に持ち出し如何にして水の風致を添へるべきかの根本案を決定することになった、本案についてはズッと以前一度設計され春日山の谷水を堰止めて不断に公園平坦部へ流水するつもりであったが、当時すでに七万円も要することゝて物にならず、今日に及んでいるもので、公園課現任幹部の腹案はさしあたっての便宜案として、浅茅ヶ原から片岡梅林附近を流るゝ川を改修して、川幅を広め川底に多数の砂礫を入れてせゝらぎをきかせるといふにあるらしく、さらに根本案としては奥山鶯の瀧の水をトンネルまたはサイフォン仕掛けにより一山越して水谷川に導き、こゝから平坦部各方面へ風雅な小流に分岐せしめること△山間地方に一大鑿井を設け大水圧を利用して豊富な水を新設水路に送ること  
の二途を考へている、右のほか諮詢会委員の意見をも聴取し経費さえ許せば何時でも実行できるやうの方策を確立するはず

・昭和5年4月16日 大阪朝日新聞大和版

春日さんの八重桜 接木で更正

古歌に残る奈良の都の八重桜は東大寺地足院、男師校正門前、興福寺事務所及び境内のほか春日神社神饌所前にも同社古記録とゝもに千年の風雅を伝へてきたが、最近同社のこの木が枯死したので、神社では何とかこの由緒ある名木を後世に保存したいと考へた結果、幸ひ古木の根元から出た山桜の新芽へ知足院に残る八重桜の枝を貰って接木することになり、十五日技術上の点につき添上郡農会武野技師へ相談を持ち込んだ

・4月19日 奈良公園を綺麗にしよう 二十日の人出に訴へる 大浄化運動

・4月20日

食べ物のせいで痩せてゆく神鹿

捨て置くいは名物に傷がつくと 一千頭に健康診断

・4月23日 長谷寺の牡丹見頃となる

・4月26日 公園諮問会 自動車で奥山視察 公園改良委員

\*5月1日から大阪朝日新聞奈良版となる

・5月1日 嫩草山登山は本月から禁止 但し二重、三重へは間道から登れる

・5月8日 三笠山登山禁止を解いて貰ひたい 「登山者には草履を貸すから」と名産商等が県に交渉

・5月10日 鹿を挟んで学問の対立 原囑託の意見に桑野教授の一矢

・5月15日 天性順応がよい 神鹿の栄養不良について 原県嘱託更に発表

・昭和5年5月21日 大阪朝日新聞奈良版

改修前にまさる風致 六千円で出来た春日山原始林の復旧

自動車道路改修により学界の問題となった奈良公園春日山原始林の復旧作業は工費約六千円を投じて最近完成したので、両三日中にその旨県から文部省へ報告するはずであるが、改修にあたっては同山特有の学術的価値を考慮して、山腹の切取斜面には蘚苔類と灌木類を、岩石切取斜面には蔦類、石垣には桜、楓を植えて水流に沿ふ風致を深め、不規則に切取った岩壁には笹灌木、羊歯類を、また空地や荒蕪地には常緑針葉樹を多数植込み改修前にまさる風致地区を現出した

・昭和5年5月21日 大阪朝日新聞奈良版

三笠山おめかし 登山者がつけた道筋を 緑の芝生で塗りつぶす

正面からの登山を禁止して三笠山の芝生保護に努めている県公園課では、同山の正面に登山客が自然的に芝生を踏み枯らして作った数條の細道が緑のなかに白々と目立って、眺望著るしく醜いのを苦にし、これを修理して山の前面ことごとく緑を敷きつめることになり、このほどから臨時人夫延百人を使って補土、補植中で梅雨明けごろには三本松以下の山腹は鮮かに緑のみとなり、一ヶ所の禿地をも残さぬことになるであらう、これが終ると漸次山頂まで補植し旧に変わる美観を誇らうとしている

・昭和5年5月24日

鈴蘭の村を三好博士が視察

珍しい鈴蘭の村宇陀郡三本松村大字向淵の林地は目下芳香あふれる花盛りにつき、文部省嘱託三好理学博士は二十五日来県、二十六日京大教授郡場博士とともに実地視察をなし、文部省指定保存の最後の資料とする

・5月24日 松山町史蹟保存会

・昭和5年5月28日 大阪朝日新聞奈良版

鈴蘭の香にむせ返った両博士 保存指定を受けるらしい 三本松村の鈴蘭の谷

鈴蘭の村といふ美名を一躍天下に馳せた宇陀郡三本松村大字向淵へ二十六日東西植物学の両権威といはれる三好、郡場両博士および岡本県天然記念物調査委員、辰巳県社寺属の一行が実地視察を行った、一行は密生地で測定の結果一平方 $\text{m}^2$ に四百五十四株自生の記録を発見し、本場北海道に劣らぬ立派なもので、育つべからざる所にかくも育っていることは予期しなかったと驚嘆し、文部省指定保存地となる可能性が十分認められた模様で、両博士は区民代表数十名に臨時講演をなし、郷土の誇りとして保存撫育に努められたしと希望した、同地は目下花盛りで一谷ことごとく芳香の海ならざるはない極楽境と化している

・昭和5年6月1日 大阪朝日新聞奈良版

けふ解禁される 吉野川の鮎狩り

日曜と一日とお節句が重なり 京阪からの予約で遊船は早くも不足

待ちにまたれた吉野川筋の名物鮎漁も五條地方では東亜製網株式会社が特に時刻を報ずるサイレンと共に一日午前零時をもって解禁となった、夜振り（焼網）は県令で禁止されているので川面一面に炬火で火の海と化する壯観は見られぬが東雲をまっけて、一日であり日曜日であり、旧端午の節句であるだけに鮎を追かけまはすに好都合で、鮎狩客は不景気にたゞられて大組みの物はないが、それでも京阪の客を迎へて五條町では遊船が三十日にすでに貸切になってまだ足らぬので、俄仕立ての遊船をしつらへに業者が奔走している盛況、鮎の本年の初相場は例年と大差なく一疋十銭から十二銭くらいと産人筋の話である

・昭和5年6月1日 大阪朝日新聞奈良版

ここにも鈴蘭香る村 一坪に二千五百株もある山辺郡都介野村

宇陀郡三本松村と相対してここもまた珍しい大群落を有する鈴蘭の村、山辺郡都介野村では三本松村とともに文部省天然記念物指定地として保存撫育されたいと三十一日中尾村長上県陳情するとともに、村当局では警察と打合せ濫採防止に努めることになった、同村における鈴蘭の分布は相河、吐山、小山戸、白石、南之庄の各大字にわたり、同村の半分以上の地区を占め、海拔五百<sup>程</sup>ないし五百五十<sup>程</sup>の地に芳香を放っている、附近町村からこの村さして生魚その他行商に来るものが、帰途の空荷に採掘した鈴蘭を入れ、一株花の咲いていないもの十銭、花のあるもの二十銭くらいに売却している模様である、岡本県天然記念物調査委員は近く同地に出張調査するが、一坪に二千五百五十株も自生している見事なものなので指定保存の見込み十分だと

・昭和5年6月5日 大阪朝日新聞奈良版

吉野の桜が枯れますよ 県の補助だけではやり切れず 文部省へ泣きつく協議

吉野山全山の桜は約三萬本あり、広い地域に散在しこれが保護手入には多大の手数と費用とを要するが、県予算吉野公園費は所期所要額の百分の一位のため病虫害、栄養不良、腐朽などの惨害おびただしくあたら名木も枯死に瀕する状況である、地元では県公園課の指揮により年々若木の増殖に努めているが老樹の外科的手術若返り、施肥は費用と技術上の困難からほとんど顧みられぬと云ってよいほどなので、町当局および保勝会では文部省保存費中から補助を得て管理を十分にしたいと目下県と打合せ中

・昭和5年6月5日 大阪朝日新聞奈良版

銀鱗をどる 下市の姿（一）

・昭和5年6月10日 大阪朝日新聞奈良版  
重要物産「杉箸」 下市のすがた（五）

・昭和5年6月10日 大阪朝日新聞奈良版

遊覧客が押し寄せる 指定を控へた三本松村の鈴蘭の群落

鈴蘭でやかましい宇陀郡三本松村大字向淵の鈴蘭群落地は三好、郡場両博士が視察し、文部省では天然記念物の指定をする段取りとなっているが、両博士らの調査によると

群落地の一部は一平方坪で四百五十四本、一坪に一千八百数本自生しこの間に二十七種の雑草が生えている、そしてこの割合で自生する鈴蘭の場所は一山毎に数十ヶ所も点在しをり、早く開花したものは目下結実して青い実をぶら下げ、奥の方の日裏は花盛りで、大抵四五輪から土地の肥えた盆地で七八輪もつけている

村では地元区長らが実地と対照して地籍図並に隣接地番反別所有者氏名を取調べ実測中である、自生山林中の平地二三町歩で遊覧に適する場所は昨今朱色つつじの真盛りで共に美しく多数の観覧客を迎えている、地元では農繁期にもかかはらず半日交代で約三十五人の自警団員が毎日四人づつ出て監視につとめ、浜岩駐在巡査が毎週二、三回づつ警邏している

・昭和5年6月12日 大阪朝日新聞奈良版

登山者で賑ふ吉野山 花時より多い

薄暑の六月に入ってから吉野群山をあこがれるもの多くなり、霊峰大峰登山の行者たちは連結電車ほとんど満員の姿で入山するとともに、学生の吉野山探勝も例年になり賑やかさを示している、花時比較的人出少なかった吉野山では、この人気にホクホクである、奥山頂上には目下石楠花、五葉つつじ、虫かりの花が満開で、来月に入ると高山の霊花（大）山蓮華が純白の花をつけて広芳何里の仙境を展開する

・6月14日 桜の実に誘はれて猿群公園に現る 公会堂の屋根を荒らし公園課員を泣かす

・6月15日

川上村の岩桜大群落 ちかく指定の手續がとらるゝ見込

吉野郡川上村三の公川溪谷妙見瀧の岩肩附近一帯に自生して淡紅五弁のしほらしい美花をつける岩桜の大群落は、目下花盛りであるがこの花は

土佐名野川、伊勢菰野、大和大台ヶ原白崩の三ヶ所に自生地が発見されたがいずれも根絶し

今では本邦唯一の自生地が川上村となっているので、三好理学博士もこれを指定保存した

き希望あり、なほ附近にはセンダイ草、クラガリシダ、ナガミシシランなどの珍草群もあるので近くこの一帯は指定の手續を採られる見込みで、岡本県天然記念物調査委員はすでに下調査を終った

・6月15日（盗木のこと）

奈良公園奥 検索 県公園課が奈良署と協力して

奈良公園奥春日山、芳山、花山一帯は昼なほ暗い密林で、盗伐が行はれまたは市内に跳梁するコソ泥の休み場所となる虞あり、県公園課では奈良署と協力して十四日早朝から巡査、看守ら二十八名が一斉入山し検索を行ふと、もに防火上の注意をなし、相当成績をあげた、今後も時々同様の検索を行ふと

・昭和5年6月17日

両原始林の学術的保存経営 細かい制限を定めた 史蹟調査会の原案

名勝指定地奈良公園および春日山原始林三百一町余歩の保存施設については、これを利用方面より計画せんとする県公園課に対し、学術的保存方面から経営せんとする県史蹟名勝天然記念物調査会があり、両者の間におのづからな意見の相違があつて、今後の施設経営をどうするかは一般から注目されているが、史蹟調査会の方では近く委員会を開催（十七日開くはずのところ都合により一時延期）保存意見をまとめることになった、しかして該委員会に提案される原案は大様次の如くでかなり詳細にわたる制限があり、これを利用側の県公園課がどう見るかは興味深い問題とされている

○春日山保存について

春日山はこれに棲息せる動物および自生の植物と、もに自今絶対に現状を変更せぬことをもつて方針とし、この方針遂行のために左の制限を設けること

一、原始林内では左の行為を厳禁す、春日山原始林内でその天然更新を阻碍すべき動植物の採取行為△原始林内に特有または自生する植物以外の植物、花卉を他より移植すること△原始林内に棲息する諸種の動物以外の動物を他より放飼すること△原始林内において間伐、択伐、下刈りおよび樹根土石などを採掘すること△原始林内で喫煙その他火気を用ひること

二、原始林内における遊覧自動車の通行はその都度知事の許可をうけること、なほ遊覧自動車の回周巡路、車台、速力、台数、警笛、使用油、運転手および時限などに関しては左の制限を設けて厳守させること

回周巡路は勾配の関係上瀧阪より入山さすこと△台車はコンマーシャル・シャーシーとし車体は高級車七人乗以内のもので自動車新調後二ヶ年以内のものまたは馳駆マイル数二万マイル以内のものとし△速力は一時間八マイル以内とし△入山度数は一日三十輛以内とし発車間隔は十分以上たること△自動車警笛は振動および反響の大ならざるものたること△ガソリンは優秀品使用のこと△運転手は技術優秀なもの△日出前、日没後および雨天の日の入山を禁す

三、照明設備または大音響を起す行為

四、休憩所の取締方法を講ずること

五、遊覧自動車の入山取締のため相当監督機関を設置のこと

○奈良公園保存について

奈良公園はその特徴たる古典的気分と自然の高雅な風致を尊重し、これを維持保存するためのほかは一切現状を変更せぬことをもって方針とす

一、春日山原始林附近一町以内の地域では、既設家屋内の外は喫煙その他火気を用ひることを禁ずる

二、左の施設は奈良公園にふさはしくないと認めるから将来の施設上慎重な考慮を切望す  
プール△遊技場類の設置△休憩所と標榜して飲食店の類を許可すること

・6月18日

あんなことでは施設は出来ない 神経を尖らした県の公園課

昨報＝春日山原始林および奈良公園保存に関する県史蹟調査会の原案は公園利用の立場にある県公園課をして極度に神経を尖らしめているが同課の意見は

あんなことでは公園将来の施設は何一つできない、奈良公園は一部学者のもののみに限らず一般の利用法面からも考慮せねばならない

といふにあり、遊技場設置の民有地買収交渉中の折から調査会今後の態度には特に注目している模様である

・6月21日

指定候補 県史蹟名勝 調査会で決定

\*植物関係では向淵・吐山のスズラン群落、七面山南麓コウヤマキ純林、小椽シシラン群落、高取山樹叢、釈迦嶽高山植物群、鳴川国有林

・昭和5年6月22日

各地たより 松山 森野薬園保存会十日発会式

・昭和5年7月1日 大阪朝日新聞奈良版

見違へるほどふくよかな姿 登山禁止の効果はこの通りと 三笠山の芝生蘇る

奈良公園美しさの大観を一手に引受けていた嫩草山（三笠山）の大芝生が多数登山客のため荒らされて見るも痛ましく汚い地肌を現はしていたのを、救ふべく県公園課の果敢で今春芽立ちころから一般遊覧客の登山を禁止し、その上に芝補植、土盛りなど化粧に約一千元を投じた結果、梅雨期における芝の活着、伸長、根張りいずれも絶好で、最近では数十年間のあさましい眺めとは打って変って全山全く緑の毛氈と化し、見るからに処女の胸を思はずやうなふくよかさに化してしまった、阪田公園課長もこの好成績に望外の喜びで、今秋の遊覧期には試みに登山禁止を解いてみたいといっている、今後の方針は本年同様芽

立ちごろは登らざらず秋に許すことにして、数年持続し同山永遠の美の固い根底を作らうといふにあるらしい

・昭和5年7月1日 大阪朝日新聞奈良版

奈良の都の八重桜 若返りの手術 全国で四本よりないのが枯れかかったので奈良東大寺塔中知足院境内の八重桜はいはゆる「奈良の都の八重桜」で全国に僅か四本あるのみの珍木で文部省指定の保存木となり樹齢百年くらいであるが、病虫害により衰弱はなはだしくこのまゝ放置すれば枯死にいたる状態にある、たまたま最近上京した岡本県天然記念物調査委員は文部当局から「ぜひ外科手術を施して若返り法を講せられたし」と激励されたので、約一週間にわたって日比谷、浅草両公園の実際および白井博士、市川技師らについて手術法を研究し、三十日帰県した、近くいよいよ手術に着手する

・昭和5年7月4日 大阪朝日新聞奈良版

春日山原始林は何うして保存するか

「自動車の乗入れは絶対不可だ」「区域を縮小して入山を禁止せよ」史蹟名勝天然記念物調査委員会の意見

奈良公園春日山原始林保存に関する県史蹟名勝天然記念物調査会は二日県会議事堂で開催、大屋靈城博士ほか十三氏出席、思ふ存分意見を述べたが、管理の大方針は現状を保存するにあり、たゞその程度論がやかましく述べられたもので席上各種の意見を拾ふと

自動車を入山さすことは絶対にいけない、自動車を利用し短い時間で見て帰らねばならぬやうな人ならむしろ入山する必要はないではないか△自動車はいけない、奈良ホテルに泊った某外人はこの問題について自動車を馬車に変更するがよいといった△現在の程度なら別に害はないと思ふ△入山すればするだけの害はあらうが自動車やガソリンがそんなにひどい害あるかどうかは疑はれる、害あるか否かはもっと詳しく学問的調査の上でないと断言できまい、調査機関を設けてはどうか△三百町歩に余る区域を原始林として保存（しかも一面公園でありながら）するのは無理ではないが、もっと区域を縮小してそこばかりは公園とせず入山を厳禁し人工を加へず全く自然の姿に委しておくといった観方もあると思ふ、だから廻遊道路附近はたとひ原始林だとはいへ「絶対保存」などに見なすのも一法ではないか△原始林内に棲息する鳥獣を愛撫する観念を養成したい、供餌、巣箱設置などの保護施設を講ずるのもよい

といふ風に多種多様の論が出た、笹井知事は熱心に最後まで一々傾聴していたが、右につき同知事は語る

よい教育を受けた 討論を喜ぶ笹井知事

さきに開かれた公園諮詢会とともに私に対して教育してくれることと、今後起るべき事件に関する時の判断の予備知識を得ることと、かくの如く専門家の意見が判れば当局者が個人的思ひつきでいろいろな事をしないやうになる利益とを受けるわけで、各委員の御意見はよく聴いておきました、文部省からは「春日山を今後どういふ方針で経営するのか」と

照会して来ているので、近く回答することになってをり、それさへ済めば今後知事や部長が更迭しても山に対する方針だけは不変で種々の便宜があると考へます

・昭和5年7月9日 大阪朝日新聞奈良版

春日原始林の経営に関する方針 近く県から文部省に報告

さきに文部省から本県あて「春日山原始林の今後をどう経営するか」と照会して来たに対し、県では史蹟名勝天然記念物調査会をひらき意見を聴取した結果、目下主管社寺課で本省あての回答文を起案中で、近く笹井知事の決裁を経ることになったが知事の意向では、必ずしも学問的見地のみに傾かず、しかも同山の学術的価値を傷つけぬ程度の中庸を得たものを県の代表意見とするものの如く

絶対とはいはぬができるだけ現状を維持保存すること△原始林指定の地区の変更などは考へず△自動車通行も全然禁止する説を採用せず、さりとて無制限に通すこともせず

「害があるだらうと思はれる極端なもの」に耐しある程度の制限を加へること

が大方針として回答されるものと観測されている、笹井知事は語る

文章にして見てから□を練るつもりですが、実際官吏の立場に立つと論理の貫徹ばかりを期するわけにも行きません、貫徹を愉快がっているのは実際の仕事には不都合なことも生ずるのでせう

(曖昧で優柔不断な知事の態度)

・昭和5年7月9日 大阪朝日新聞奈良版

蔵王堂の蛙飛び行事 七十年振りに復興し 吉野山は沸く賑ひ

七十年振りに復興した珍奇な祭大和吉野山蔵王堂の蓮華会蛙飛びの行事は七日午後八時から行はれた、吉野山子守神社から、吉野町の青年武田清その他が大きな蛙に扮しそれを台に乗せて数十人が担ぎ、太鼓を叩き、槌、まさかり、松火をかざした三匹の鬼を先頭に町筋を練りに練って蔵王堂に繰込む、一方役の行者の誕生地奥田では蓮池の蓮華百八十本を切り採り、華麗な輿に収め白丁姿の者が担ひ、蓮華会員や信者数百名が数町に渡る大行列を作って、はるばる遠い路を練り、夜に入って吉野に着き、炎々と燃えさかる松火や高張提燈の列の中を、輿は縦横無尽に暴れながら蔵王堂に着いた、午後八時蓮華会を修行、これが終ると、いよいよ蛙飛びで、蛙は蔵王堂の本堂に入りピョンピョン跳ねて導師長尾智泉師の前に至り、呪文を受けて蛙は懺悔し、また二人の副導師のところへピョンピョンはねて同じく呪文を受け、広大なる本堂に溢れた法衣姿の信者が、これに和して読経し、暫し神秘的な場面が展開した、かくて九時終了し、押しかけた萬余の信者は本堂で詠歌のお通夜をした、なほこの法要は毎年七月七日行ふことになった

・昭和5年7月9日 大阪朝日新聞奈良版

鮎がり 吉野川から (中)

・7月13日 国立公園陳情 市町村長会から

・7月20日 乗入れ自動車から入山料をとる 春日山原始林保存で考へ出した県の一案

・7月23日 望みが薄くなった大台ヶ原国立公園

十六候補地中選に入るのは五ヶ所位 特色が必要といふ田村博士

・昭和5年7月29日 大阪朝日新聞奈良版

森野薬園の愛護大講演会 三好博士も出席して 松山で盛大に挙行

本邦屈指の特色ある文部省指定史蹟宇陀郡松山町森野旧薬園は土地の人たちの努力により顕彰保存の団体を生み、今後着々事業を進めるに際し、その第一歩として二十七日午前十時から宇陀中学講堂で愛護大講演会を開いた、出席者は愛知、三重、兵庫、京都、大阪をはじめ地元の篤学者、研究者ら三百五十名、多数の婦人も交って一々講演要項を筆記するほどの熱心さである、先づ保存会長、町長松尾代議士の開会の辞、知事代理飯田県社寺課長の挨拶あり、三好理学博士は「天然記念物と森野薬園」と題し、米谷県薬剤師会長は「宇陀と薬」、上田文部省囑託は「日本薬園史上における森野旧薬園」と題しそれぞれ熱心に講じ、午後三時すぎからは一同打揃って薬園実地見学をなし、遺物その他を観覧、岡本勇治、上田三平両氏が臨地講演を行った、主催者側では出席者に昼食西瓜などを提供し、町をあげて薬園顕彰に努める力が盛上っていた

・9月3日 来月から許す三笠山の登山 芝生の美観を立派に取り戻したので

・昭和5年9月6日 大阪朝日新聞奈良版

春日山の保存問題解決 県で大方針を定め 文部省に回答

奈良公園春日山原始林内自動車周遊道路拡築に発端する春日山保存問題につき、かねて文部省から

ドライブ・ウエー拡築のためにする改修工事の復旧はやってくれたが念のため今後における同山の施設方針を承りたい

と照会があり、県最高幹部では公園諮詢会などの意見を参考とし、最近左のとほり方針を決定、文部省へ回答した

春日山はできるだけ現状の維持保存に努め古典的気分を害するやうな施設は行はぬことをもって大方針とすること△原始林といへば真に一指も触れずあるがまゝに永遠に放置せねばならないのだが、春日山については学問的にかく厳密に解釈せず消極的方面

の山の手入れは行ふことがあるだらう△地域内における動植物採集、土砂採取、新種樹草植込みなどの山の性質、現状を変へるやうなことは許さぬ△入山自動車一台一周五十銭の料金を徴し入山の制限にする

なほ自動車乗入れは左のとほり時間の制限をも設けた

一月と二月は午前八時から午後四時まで△三月午前八時から午後五時まで△四月午前八時から午後七時まで△五月と六月午前八時から午後七時まで△七月と八月午前七時から午後七時まで△九月午前八時から午後六時半まで△十月午前八時から午後五時半まで△十一月午前八時から午後四時半まで△十二月午前八時から午後四時まで

・9月6日

秋の夜話（四）

命の綱 蘇武井戸 俚謡と伝説の今井町

「八木で饅頭買って蘇ふて見たら一つ足らんで今井町」といふ、その蘇武橋のほとりに千余年前弘法大師が掘ったといふ清水の湧出する大井戸がある、むかし黄金時代の今井では「奉公するなら今井か八木か、月に六さい夜なべなし」と唄はれたほど奉公人も労働者も公休日が多くて優遇されたので、今井目指して働きの手を伸ばすものが多かった、がたゞ一つ苦痛の種は一水の悪い今井ではこの蘇武の弘法井戸一つが命の綱だから、その水汲みのエライことであった、路傍に白く霜置く朝水桶荷ふ可憐な小僧さんの頬には、凍らんばかりの涙が絶えなかった、俚謡子唄うていはく

今井蘇武の朝水汲みは桶が洩るやら涙やら、桶が洩るやら涙がじょやら、襦袢片袖みな濡れた

・9月7日 松茸は豊作

\*予報では豊作であるが実際は不作になった

・9月9日 奈良公園で鹿を護る犬 三ヶ月間に四十種の人語を勉強する

鹿の角切りは十月五、六日 人夫の服装が問題となる

・9月18日

松茸山の入札 昨年より一割安い国有林

四万キログラムの松茸を出す奈良営林署管内、昨今の模様は一春日裏山地獄谷、生駒郡大田山等は今月はじめの涼しさが一週間もつゞけばもう今ごろは初松茸の顔が見られたのだが、またぶり帰った暑さのため二十日前後かともみられ平年作を予想されているが、財界不況の加減で前年の一割減四千五百円ですでに入札も終った、この国有林以外にもなほ多くの産地があり、いづれも茸狩客を呼ぶ準備にかゝっている

・ 9 月 19 日

松茸共同出荷 龍門から京阪へ

吉野郡龍門村松茸共同販売協議会は十七日午前十時同村役場に開催、従来年産額七千円、三千貫の松茸は地場販売だったが、今年から新しく村内を三四区支部に分ち京阪神方面へ統制ある共同出荷をすることとした

・ 9 月 28 日 来月から許される三笠山登山

・ 9 月 30 日 共同出荷する宇智郡の松茸

・ 10 月 7 日 奥山の茸狩 中旬頃が盛り

・ 10 月 8 日 信貴電の松茸山

・ 10 月 18 日 今年の松茸は不作らしい 今から雨が降ってももうおそい  
宇智郡方面は五千貫以下か

・ 11 月 4 日

うっかり出来ぬ 国立公園の運動 総ては法が出来てからと 岩本代議士の話

吉野群山国立公園指定問題に関し同公園期成同盟会長岩本代議士は三日来市して語る

指定されるのは誠に結構だが国立公園法の内容がハッキリせぬうちはうっかり運動が出来ない、何分吉野群山は全国候補地中第一の鬱蒼林であり、地域の九割以上が民有林であるだけ他と異なった事情をもち禁伐、保安林の制限程度並に保障法の内容如何には重大な関係がある、これらの制限と開発利益とをよく考慮したうえでないといまのところうっかり運動には乗り出せない、この事情には先般上京の際中川、本多両選定委員にもあってよく話しておいたが、政府が指定を法の制定前にするやり方は感心しない、いづれ五十九議会に提案されやうがそのをりは是非特別委員になって吉野群山のために努力するつもりだ

中川氏の折紙 吉野群山を見て

吉野十津川出身、国立公園選定委員中川正左氏は去月末三日間にわたり指定候補地吉野群山中大台ヶ原を阪田公園課長の案内で視察したが、大蛇グラ、日の出嶽の眺望を激賞し『最眞目をすてゝもこの大台ヶ原だけで国立公園指定の価値は十分にある』との折り紙をつけて帰京した

・ 昭和 5 年 11 月 13 日 大阪朝日新聞奈良版

指定された すゞらの群落 三本松と都介野村

文部省では十二日左記を天然記念物に指定した

向淵すゞらん群落（天然記念物）所在地、奈良県宇陀郡三本松村くぬぎ、こならなどに群生せる山林にあるすゞらん自生南限地帯における群落として代表的なり、吐山すゞらん群落（天然記念物）所在地、奈良県山辺郡都介野村くぬぎ、こならなどの群生せる山林にあり、すゞらん自生南限地帯における群落として代表的なり

指定の価値がある 八房の杉と三本松

県では地元の申請に本づき宇陀郡宇賀志村佐倉村社境内の八房の杉、同郡三本松村の三本松を天然記念物に指定の価値ありや否やを岡本県調査委員の手で調査したところ、十二日指定の価値ありと認定された

八房の杉は株根廻り六十三尺、樹齢約七、八百年を経た老木で根元から八本に分れて生長し、各一丈内外の株根を有し、顕著な畸型木として珍重がられている、また三本松は地名を生んだ三、四百年生の古来有名な美木で根株廻りは一丈九尺五寸、北條時頼実生の松だとの伝説がある

・昭和5年11月17日 大阪朝日新聞奈良版

天然記念物に禍する料亭や自動車 春日山を視察する三好博士の目的？

文部省嘱託三好理学博士は今十七日来県春日山を視察するが、同山中で改修された自動車周遊道路が同山天然記念物を脅かすことしきりだとし、本省保存課その他関係学者間に大問題となりつひに今回の調査となったものであるが、春日山中には招来旅館料理屋が経営され夜間も電燈照明をされる計画あるのが、著しく本省関係者の気をもませる原因となっているらしい、自動車道路改修後はしきりに乗合自動車や軽快なドライブをする観光客を迎えているがこれも本省では歓迎せず、エンジンの響き音響、ガソリンなどが珍植物の生育、昆虫などの棲息に害ありといひ、今後旅館建設の暁は、ために同山特有の貴重な天然記念物たるルーミス・シジミやヤマト青蛙群調査した、三好博士は十七、八両日踏査する予定だがその結果による本省の今後の出方に注目されている

・11月19日 大阪朝日新聞

如何にして復旧させるか？問題 春日山を視察した三好博士

・昭和5年11月20日 大阪朝日新聞奈良版

報告される踏査の結果 心配な結論が生れたらしい 春日山の实情

自然の国宝奈良春日山を実地踏査した文部省嘱託三好理学博士、岡本県天然記念物調査委員ら専門家の調査報告は本省に提出するまでは発表の限りでないといはれているが、大体の調査内容によると周遊自動車道路本線と鶯瀧にいたる分岐点から高山神社に至る間が特にひどく破壊され、また道路改修の前提として道添ひの谷の一部が埋まり谷底にいたる斜面に生れる

紅朱子蘭、蔭かづら、うどかづら、おぢゃごじぜんまい

などが心なき工事人夫のため廃絶に導かれ、かつ自動車ガソリンのため松柏科植物、同じ

く車体の振動により桜、自動車の走り風および巻き上げる砂塵のため谷間の湿生草木類が著しく脅かされる、またコンクリート側溝工事により当然さうした箇所の特生すべき

姫ばら苺、小深山堇、岩姫わらび

などが生えなくなるといふにあるらしい

林地遊覧を 厳禁する 標本採集も

別項一春日山原始林保存のため県では三好博士の意見に従ひ、今後周遊道路以外の林地に遊覧客の入地を厳禁するとともに、植物専門家といへども標本類の採集を禁ずるはず

阪田公園課長談

奈良春日山にはよい植物が多くあることは知っている、これを保護する専門的立場と一方公園の利用といふことと調和して行きたい、公園である以上なるべく利用せしめ、しかも利用せしめても保存できるといふ風に考へて行きたい、三好博士の調査は目下工事中の最も悪い時に際しているが、二、三年たてば湿気の多い土地だから苔その他も生じてさう悪くしたのでないと思はれやう、改修第二期工事は来年六月まで続くであらう

・12月19日 大阪朝日新聞

東大寺境内を史蹟に指定 文部省の態度決定 さて県はどうする？

・12月21日 大阪朝日新聞

奈良公園を舞台に 物凄いチャンバラ 今年中に百五十五回のロケーション この入園料が千六百元

大木を依嘱して林相を固める 春日山の経営方針

・昭和5年12月22日 大阪朝日新聞奈良版

春日山の道路 改修を中止せよ 自然の保存に関し内務省から通牒

はしなくも学界の問題となった奈良公園春日山原始林内自動車道路に関してはさきに三好、内田両博士の視察あり、その後の成行きは注目されていたところ二十一日文部省保存課長から県あて「同山内における道路改修を中止せよ」との通牒が到達した、同自動車道路は目下第二期工事で来春竣工する予定になっている、右につき阪田公園課長は語る

要領を得ない 阪田公園課長談

道路改修を中止せよとは、はたしてどういふことをいふのかハッキリしない、同地域には従来から路があり自動車がやはり通っていたのであるが、道である以上は測候がないと維持上よくない、今度の工事は主として測候作業であるがその作業を中止せよといふのかどうか—この問題については実地を知っている人には噂ほどでもないと思はれる、知事は二十二日帰県されるからその時には何かよい結果がもたらされることと知っている

昭和 6 年

大阪朝日新聞奈良版昭和6年

・1月8日 冬籠りの熊を狙ふ（連載）、大峯山系のクマ猟のこと

・昭和6年1月10日 大阪朝日新聞奈良版

吉野を語る人1（連載）

いつまでも 桜に生きる吉野山

初代知事の暴令を防いで 花を生した前坊、古澤両氏の功績

奈良の大仏を鑄造した青銅の余りで造ったといふ有名な銅の鳥居のほitori、旅館さこや主人大村裕氏は二十六歳で奈良県会議員となり、その才能を謳はれたが、不幸脚に病を得て結跏趺坐の生活を送ること十余年、説南と号し人を見れば南朝と吉野を説き、話題の尽くるところを知らない、座して天下を語る人である

吉野は役の行者が修験道を起してより、この地に多数の寺院が建立せられ、修験道が全国を風靡するや吉野の勢力は大したものとなった、その時建立せられた蔵王堂の本尊が桜の精であったことから、桜樹が尊重せられてその数も増し「これはこれとはばかり花の吉野山」の句も嘘ではなかったが、明治維新の時に蔵王堂は廃寺同様の惨状となり、従って信仰の低下は桜樹の濫伐となり、搗て加へて奈良県初代知事税所篤氏が桜は不生産的だ、茶の木でも作れと命令を下しあはや花の吉野山は全滅かと思はれたが、その時吉野の前坊常磐、古澤龍敬の二氏は断々子として、知事の命令に反対し芳雲社を興して吉野の桜を死守した、今日の吉野あるは全くこの二氏のお蔭によるもので、独り吉野の恩人でなく実に日本の花のためには忘れてはならない人である、吉野の花の特色はどの地点から見ても「谷をへだてゝ花を見る」の感があり、国府犀東氏らもこの点を礼讃し

春展桜雲夏緑蔭

秋風冬雪値千金

芳山四季無優劣

妙溪烟有劃半岑

と吟じている、この意味から私は、吉野山の人にそれが住宅の中であらうと山であらうと野であらうと一本でも多く桜の再現を期してほしいと思っている、しかしこゝに近代吉野としての誇りは上水道の完成である、馬の背のやうな山頂の町に飲料水の困難は当然である、山の水を僅か笕で取水して生活して来た笕の生活は、風流か知らんが夏の断水と非衛生に永年苦しんだ、こゝに吉野町が十六万円の巨費を投じて上水道を完成したが、この工費は一戸当り実に九百円（奈良市は百五十円と聞いている）に達したが、吉野山岩倉を水源地とし、水道の延長三千間、生活上の貢献はもとよりこれにより防火設備が完全となり、貴重なる数々の国宝はこれがために安全となったことは二重の誇りである

・1月10日

県下の特産 二十種で千四百万円

(県統計課九日発表) 昭和四年度における本県特殊物産二十種の生産額は千四百四十九万三百二十一円で、前年度に比し七種類が増産、十二種類が減産し、結局総額において百三十五万八千余円の増額を見ている、各生産額は左のとほり(単位は千円、括弧内は前年との比較△は減)

大和緋五九三(△四六八)、大和西瓜五八三(一三二)、奈良筆墨一、二九一(△一六)、奈良蚊帳一、六二九(△二九〇)、奈良人形七七(二)、奈良漆器四二三(△一)、奈良晒布二七(九)、奈良漬一三〇(△少額)、あられ酒二〇(△五)、奈良団扇三八(少額)、高山茶茎七(△四)、赤膚焼一七(△二一)、金魚一六五(七八)、金剛砂一七九(△一六)、手延素麺四一三(△七三)、凍豆腐九二八(△二〇四)、吉野葛三二(少額)、吉野紙二九(二)、木箸八〇九(二四)、大和売薬六、〇八九(二、二一〇)

すなはち右によると奈良特産品が人形を除くほか蚊帳を筆頭に枕を並べて減少、大和緋も約半減の打撃をうけ、郡山金魚の輸出進出による増産、吉野下市における木箸の活躍等が目立っている

・1月11日 大阪朝日新聞奈良版

吉野を語る人 (2)

昔を今に……と 再興を急ぐ蔵王堂 花に酔ふ吉野山の繁華は蔵王堂が生んだもの吉野切つての大伽藍蔵王堂住職長尾智衆師は修験道の大道場たる蔵王々に昔ながらの難行苦行を重ねている

修験道を一口にいへば役の小角の開いた己の苦行をもって世を救ふの宗旨である、金峰山寺蔵王堂は小角が大峰山上に金峰山寺を建立した時の草分けで、いはゞ吉野は宗教によって開かれた土地である、修験道の最も盛んなのは藤原時代で日本全国津々浦々まで風靡したもので、それからどの時代にも相当の勢力を有していたことは建武の中興にも南朝のお味方が出来たのを見ても確かである、しかるに明治維新に寺院の改廃が行はれて蔵王堂はその犠牲となり、七十三ヶ寺の末寺と共に完璧なきまでに破壊されて了ひ、宗教都市としての歴史の誇りも滅茶々々になった——花といへば吉野、吉野といへば花を連想する桜花もその濫觴は蔵王堂に起こっているのであるが、桜は減ったとはいへまた訪ふ人があっても蔵王堂の表徴は顧みるものはなかった、その後復興に力を致し昔日の面影と修験道の真意を再興しようと日夜修行を怠らず努めているが、破壊の創痕いまだ癒えずの状態で傷の手当に追はれている——要は宗教に開かれた吉野山であるから吉野山はどこまでも宗教によって進んで行かねばならぬ

◇宗教雑誌「修験道」を主宰している山田如雲師は修験道の研究家として聞えている

およそ宗教は研究して後信仰となる、吉野を知らんとすれば先づ宗教を研究しなければならぬ、雑誌「修験道」は大正八年から出しているが修験道は外の宗教のやうになま温いものではなく苦しみを体験し、すべてのものに打ち克つ宗教で思想受難、安逸を貪る今の時代に最も必要な宗教だと信じている、江木文相が大臣になった時「およそ輔弼の

任に当るものは大神宮と樞原と桃山とそれから吉野の後醍醐天皇陵にまいらねばならぬ」といったのは至言である、更に南朝五十年の研究は吉野としての努めであり、金峰神社、安禅寺、西行庵等の顕彰もまた一日も早く完成しなければならぬ仕事である

・1月13日

国立公園運動は全県一致でやる 予算は前年度を越さぬこと 県下町村長幹事会申合

・1月13日

春日山の名木に手術 壁塗りやトタン屋根で 枯死を防ぐ応急策

・1月14日

発会式は二十一日举行 国立公園期成同盟会

・1月15日 山焼記事

・1月16日

吉野を語る人 (6)

太鼓を持出して 機関車上で散財 恐ろしいのは花時の群衆 電車が遅れたらサア事だ

◇大軌吉野電車現業員監督の森島

・1月17日 三笠山焼き今夕七時から 盛沢山の余興など 今年は特に賑やかに

・1月18日 一夜に変わる三笠山黒化粧 近来ない見物を迎へ 山焼き行事賑やかに終る

・昭和6年1月22日 大阪朝日新聞大和版

実現するまで 三県一致で運動

二十一日発会式をあげた 国立公園期成同盟会

吉野群山を中心として瀨峡、南紀海岸を抱擁する大国立公園期成同盟会は奈良、和歌山、三重三県聯合して二十一日正午から本県公会堂で発会式を挙げた、出席者

△本県側 西町村長会長、榊井吉野、水原生駒、中西高市各町村長会長、羽根吉野山山

岳会長、松本市助役、阪本大軌吉野出張所員、岸田吉野山岳会幹事、その他各町村長七名△和歌山県側町村長会長山下定市、新宮町長木村藤吉、串本町助役川原義仁三氏、三重県側は都合により欠席の旨入電あり

西本県庁村長会長、議長席に着き、開会の辞につき榊井吉野郡長村会長挨拶を述べ、ついで岸田吉野山岳会幹事は本県の取った促進運動の経過を説明、午後一時過ぎ休憩、午後二時再開、会則の議定に入り

#### 会則と役員

一、本会は近畿国立公園期成同盟会と称す

一、本会本部を奈良県庁に、支部を三重、和歌山両県庁に置く

に決定、役員選挙に移り

会長 西本本県町村会長

副会長 山下和歌山県、古家三重県各町村長会長、榊井吉野郡長村会長

顧問 三重県知事、同選出代議士下村本社、同大毎各副社長、種田大軌専務、村田大阪商船社長、

その他三重県から二、三を依頼することに決定、なほ理事、評議員は会長に一任し、予算は先づ最初七百三十円と決定、近く三重県側の古家副会長と会長打合せをなすこととなり、一同今後如何なる苦境に立っても勇敢に戦ひ、勝利の月桂冠を得るやう三県一致協力運動することを申合せて、午後三時散会している

・昭和6年1月22日 大阪朝日新聞大和版

国立公園となれば 町は大事な玄関口

◇一色は黒うても味見てをくれ 俺は大和の吊し柿—◇の誇りを語る

下市のくさぐさ (二)

吉野郡町村会長であり町長である榊井喜明氏は近時山村の

・1月27日

三割を値下した桜井の製材費 これでは阪神の木材業者と競争が出来る

・1月29日

吉野川の出材減る 前年より二割

和歌山県に流出する吉野川沿岸の昨年末三ヶ月間(閑散期)の出材量は

十月、四一、二〇〇石△十一月、五七、七〇〇石△十二月、六五、八〇〇石で前年に比し

二割方の減産である、原因はやはり木材界不況の深刻で、建築材小丸さへ収支償はず、加

ふるに缶詰容器に圧倒され、その他樽丸、酒樽の需要も香しくなく製品、市場に堆積したゝめだと

・2月3日

国立公園建議案 岩本氏が提出

奈良県選出岩本武助代議士二日衆議院に「大台ヶ原および大峰山脈を中心とする国立公園設定に関する建議案」を提出した

・昭和6年2月26日 花を前に桜に御馳走 大阪朝日新聞大和版

近く花咲く春を迎へて桜の名所吉野山では三月四日山内各戸約三百名が総出で、全山全樹に名物の人糞大施肥を行ふが、当日は県公園課でも金肥施肥する

・2月28日 化す神社の神鹿 銃弾で斃る 常習犯人の仕業か

・2月28日 打合会を開く国立公園運動

・3月1日 おそくとも六年度中に指定 国立公園法案委員会で当局答弁

・3月11日 『三笠山の登山料を取っては』奈良の名所は見せたいし芝生は惜しい悩みから

・3月25日 これで助る大峰の風致 官林の伐採計画を営林局で緩和  
(鳴川国有林伐採計画)

・3月28日

花見の設備に 忙がしい吉野山 ・・休憩所・花見館・お土産もの・・

花のお目見得は三日から

「花」を前にして桜の吉野は山をあげて今花の準備にいそしんでいる、世の不況もさることながら参急の開通、大軌の割引その他交通機関の完備を見ては吉野の花の魅力は百パーセント、どんぶりの底をはたいても……と山では遊覧客の激増を見越しいろいろな設備に忙しい、吉水院では五千円を投じて境内に御殿風の無料休憩所を完成、休憩所と同時に臨地講話用としても使用するはずで、それから吉野保勝会の中千本の花見館の新築、雪洞の建設——一方土産物店、売店は保勝会とも打合せて値段を協定し、福助足袋本舗では全山の雪洞の数の懸賞募集を計画し、昔からの有名な土産の花籠、新らしいところでは土地の太田信一郎が創めた吉野人形など色とりどりに花の山を飾らうとしている——かくて四月三日の蔵王堂における村上父子の大法要を序曲としていよいよ花の吉野山は展開される

・4月3日 三笠山の芝生保護方法決まる 保勝会を組織し登山者に絵はがきを売る

・4月5日 いよいよ生まれる奈良観光協会 活動の第一歩は奈良の宣伝から

・4月7日 吉野山の満開は十四日ごろから

・4月10日 さくらの記事

・4月10日 芝生保護の絵はがき売出し

嫩草山保勝会の芝生保存絵はがきはいよいよ今日十日から山麓にボーイスカウトの服装した売子七名を配置し売りはじめるが、県公園課では山麓道路上または登山口各所に「芝生保護のため絵はがきを買って下さい」とした吊額立札、立看板を出す

お一目見得する奈良の新名物 公園風景の絵葉書

鹿と桜の奇麗なお菓子

・4月11日 写真

・4月12日

御料地芝生の 専用料を 活写機 春日神社

奈良公園雪消沢附近御料地芝生は三笠山麓につぐ休憩地として多数遊覧客を集めているが、春日神社ではこんど境内地の関係で四月一日から園遊会など区域を設けて同地を占有するものには宮司の許可制をとり、一日十円の料金を徴収することにしたので、県公園課では従来管理を依頼された関係もあり来遊客の感情を慮り、十日増田

・昭和6年4月12日 大阪朝日新聞奈良版

森野薬園 追加指定出願

宇陀郡松山町では同地の史蹟森野旧薬園西部接続地約一段歩が当時薬園の重要地域内で現存の建物はまた薬草木の乾燥場および賽郭翁居室として意義深いものなので、十一日松尾町長から県を通じて史蹟追加指定を申請した

・4月12日

今年の造林 千六百町歩

県では吉野郡北山、十津川、天川三ヶ村における県営造林百町歩の植林に着手しだしたが、本月中に杉檜四十五万本を新植の計画である、また吉野林地その他県下の民有林でも約千五百町歩にわたって植林を行ふはずで、延人員約三万二千五百人の山間労働者をこれに使用される見込みである、本年の県の人夫賃は一円ないし一円四十銭（女は六、七十銭で定めているが、山ではこれに引続いて地拵へ、下刈手入、伐木、運材など、秋中ごろまでは仕事が続き、冬中不況を歎いた山稼人にも春の喜びが見舞うてきたわけである

・4月12日 松山を語る（1）

・4月14日 花えしき 吉野山賑ふ

・昭和6年4月15日 大阪朝日新聞奈良版

松山を語る(2)

売薬界の大物は 多く宇陀の人 幕府の薬草研究所として 天下に誇る森野薬園  
松山町の誇り史蹟保存指定地森野旧薬園は町の中央部古城山の麓にある、創始者森野藤助氏こと賽郭翁は享保年間幕府の御薬草御用掛植村左平(次)氏が採薬のため大和に来た時その案内をして、奥宇陀、吉野地方の山野溪谷を跋涉し諸所において薬草を採取したのが濫觴で、薬草の研究に没頭しその功により幕府よりも貴重な薬草を下付され、研究を続けたのがこの薬園の始まりだといはれている、奈良県史蹟調査会委員岡本勇治氏(植物研究家)の談に

森野賽郭翁は町人としての学者であった、この薬園が幕府の薬草研究所といった形で和漢薬に対する翁の功績は大きい。また画をよくし「松山本草」と題し薬草を写生した文献十冊をはじめ、種々の日記その他が遺されているが、この土地が偏僻であるため兵火にもかゝらず、すべてが完全に保存されて来たのは喜ばしい—しかも賽郭翁の業績が今の世にも残される證拠として、今日日本の売薬界に頭角を現はした大人物の多くが宇陀地方の出身で曰く「胃活」の山田安民氏、「中将湯」の津村重舎氏、「命の母」笹岡省三氏「藤澤樟脳」の藤澤友吉氏らがそれで、これらのすべて洋薬万能の今の世の中にいづれも和薬を主剤としていることも注目すべきことであらう

・4月16日 萬葉植物園の記事

・4月20日以後? 草木葉譜の写真

・5月2日

よく売れる登山絵はがき だが芝生補植費は 出さうにない

・5月5日

観光協会の 創立準備会 次回は十日ごろ

・5月5日

散った牡丹を 咲かせた嬌女 吉野に比肩する桜の名所

牡丹咲く初瀬②

継体天皇十一年酉年大洪水があり、

さくら 牡丹に名高い長谷寺は実は桜の歴史に彩られている、すでに飛鳥朝時代奈良朝時代に雲上人の長谷寺の桜に関する歌が非常に多い、長谷寺の桜はその数においても風景においても吉野山に優るとも劣らない、それで寺でも町でも保勝会でもこの桜を復興すべく努力し今年も八重桜を五百株増植した、

牡丹 今有名な牡丹は元禄十三年に移植したものと伝えられているが、その濫觴に一つの伝説がある—そのころ寺に一老僧があり好みて牡丹を作ったが、その花を本尊に供へんために培ふたのであるが、切り取るとは如何にも惜しい、逡巡しているところへ一酔漢が現はれて牡丹園を足蹴にかけ散々に踏み荒らした、老僧はこのこともあってから仏の罰であらうと悲嘆の涙に暮れていたところへ一人の美しき女性が現はれて老僧を慰め自分で散った牡丹の花片を掻き集め、茶釜の汁をかけ婉然と笑って姿を消したが、翌朝の牡丹園は昨日に変わって百花その妍を競ふの旧態に復していたので、老僧は狂奔しあの女性こそ観音の化身であったかと今更ながら菩薩の徳を讃へたといふのであるが、現在の牡丹は百五十種、二千五、六百株に達し、年々多大の経費をもって増植している、一体観音さまといへば陰気な風に考へるのが常であるが、長谷寺の観音様は明るい感じを与える、それは観音様の伝説に「富」に関するもの「恋」に関するものが多い、有名な「今昔物語」の中にある「藁しべ物語」の福運を祈った男が一片の藁しべから物々交換の末大分限になった話や、未来男と笑はれて終に鐘を奉納した未来鐘の由来や恋の返歌に困った男が長谷本堂に返歌を得た話や、明るい仏様と牡丹の名所が如何にもふさはしいと思はれる、今でも真面目な賽者が多くいはゆる水商売の人でなく堅実な実業家が多いことは特色といへやう

・昭和6年5月9日

吉野山を 視察する 国立公園委員

国立公園期成同盟会では近く法律案による選定委員会の設置をまって再び実現運動を起す計画だが、目下長崎の雲仙視察に西下中の国際観光局観光委員荒井局長、藤村男ら一行は小栗副知事の勧誘で帰途二十二日午前七時三十五分大坂着来県、この途のお歴々が打揃って吉野群山を視察する予定である、なほ同盟会ではこの運動にはとくに熱心だった小栗知事を台湾に送り、今後の努力を期すとともに新任石黒知事にも同様尽力を乞ふべく着任を待ちうけている

\*石黒英彦知事の任命は5月5日

・昭和6年5月9日

奈良公園の自動車制限 遊覧客をのんびり 遊ばすために

・5月20日 三笠山登山はけふ限り 二十一日禁止

・5月23日 芝生補植に労力奉仕 公園行商人が

・5月23日 イハカヅミ 曾爾村の群落

学者を喜ばす珍植物オニヤガラ 京大今村理学士が松山の山中で発見

・5月29日 鈴蘭の花盛り

・昭和6年5月30日 大阪朝日新聞大和版

三笠山三重目に周遊道路を新設

奥山巡りは左廻りに 変わるらしい大軌の意向

奈良遊覧の勝地春日奥山周遊ドライブウエーの現在自動車遊行は右廻りに限られているが、このコースは最後に人家街へ出てせつかく原始林美の幽邃に陶然とした感興をそぐのと、瀧坂妙見、大杉教会の参拝に不便があり、大軌会社ではこれを左廻りの逆コースとし、同時に三笠山三重目山頂に周遊道路を新設し、ここから木津川の清流大和平野を眺める遠望をとり入れ、同ドライブウエーの欠点を補ひたいとの希望がありこのほど来県の意向を諮っていたが、県でも賛意をもち具体化をはかる模様で、二十八日阪田公園課長は横井同社営業副長、運輸係長と共に同地を視察した

・昭和6年6月13日 鈴蘭群生地で植物実地研究 牧野博士指導

大阪植物同好会主催の植物実地研究会は十四日（晴雨不論）参急沿線大和室生および鈴蘭群生地の向淵を中心として催され、我国植物界の最高権威東京帝大教授理博牧野富太郎氏の現地指導がある、臨時参加希望の同好者は当日午前九時室生口駅に参集のこと

・6月16日 すみれの珍種を発見 植物実地研究会

・昭和6年7月16日 大阪朝日新聞奈良版

森野旧薬園保存会が出来る 津村、藤沢氏ら後援で

松山町の森野旧薬園は同町の保存会により本省及び県の補助を得て保存に努めているが、それらの建物修理指定地買収、松山本草、葉譜、その他復刻発刊等をするには補助金のみでは実行不可能で悩んでいたところ、津村重舎、藤澤友吉、桂松薬学博士諸氏その他大阪

の一流薬商が発起となり、財団法人の保存会を設立して、薬園を日本のものとする事になったので、近日中にこれらの人々が薬園視察に来松することになった

- ・7月17日 八重桜の風損被害記事
- ・7月17日 放置される吉野群山の珍花 「オホヤマレンゲ」を田村博士がAKから
- ・7月31日 標準条件は吉野群山に有利 国立公園候補地について

阪田公園課長談

- ・8月6日

生れ出た奈良観光協会 会長以下の役員決定

生れ出づる悩みを続け危ふく流産の憂目を見んとした奈良観光協会は、五日午前十一時 呱呱の声を挙げた一來賓として早川内務部長、坂田公園課長、木本源吉、関信太郎氏、市議員その他会員約八十名出席、兼田市産業課長の開会の辞について森田市長の挨拶後会則の審議に移り、役員選挙の結果

会長一森田宇三郎、幹事一松屋利助、松井庄五郎、岩谷貞三、藤田嘉平治、千馬信一郎

△兼田一男△京極信太郎（△印は常任）、評議員松本仙太郎ほか十九名

と決定、予算三千五円を満場一致可決、知事告辞（早川内務部長代理）について來賓として河合甚吉氏、奥田信義氏、奈良駅長、山田梅吉氏、劍持奈良ホテル支配人の祝辞あり、午後零時半閉会

- ・8月6日

香落溪の指定調査 俗化や破壊を防ぐため

宇陀郡曾爾村の奇勝香落溪は最近参急電車の開通以来著るしく俗化現状を破壊されつゝあるので、文部省ではこれを名勝地に指定保存すべく今春同省囑託国府犀東氏を派遣実査せしめるところあったが、いよいよ指定の肚らしく最近県知事にあて指定に対する知事並に関係者の意見を求め、同時に物件の調書、景勝図等の提出方を促してきた、右に対し県では香落溪が三重県側に跨ってをり、指定区域などについては同県と合議のうへ方針を決定回答するはずである、なほ上流屏風岩、兜岩、鎧岩等は別個に天然記念物として指定の見込みで県では目下調査を進めている

- ・8月8日

盛夏でも 松茸は出る 二十度以下の温度になれば

昨七日奈良営林署では同署管内京都府相楽郡棚倉村大字北谷国有林から香はやゝ薄いが笠の直径三寸、長さ四寸、目方五、六十匁の松茸二本を採取した、同署では松茸発生の温度に関し多年研究の結果に本づき、市内温度二十度以下となれば発生するとの確信を得、八月になってから丁度この温度の日が続いたので、必ず発生しているといふ見込みをつけ、同林をくまなく探し発見したもので、松茸は秋に限らぬといふ確信を固めることになった、

なほ八月上旬に松茸を発見したのは同署では初めてである

・ 8月8日

漆器を輸出 その講習会

年産四十二万円の本県漆器は奈良の如き歴史も古く、東洋固有の工芸品として国際市場性あるにかゝらず製品は内地向のみで輸出品なく、せつかくの技術を持ち腐りにしているので県勧業課では海外新販路への発展を促すため今秋約五日間業者の講習会を開き、輸出品に必要な蒔絵、金銀塗装技術の向上並に用途開拓、意匠改善を図ることになった

・ 8月8日

吉野群山へ 早川内務部長

荒木土木、阪田公園両課長と共に八日午前八時十六分大軌東向発、吉野群山を跋涉し、国立公園候補地並に同地方の道路施設を視察しつつ川上、天川、上北山、下北山を経て和歌山県木ノ本に出て役一週間で帰庁の予定

・ 8月12日 区域外補水に 倉橋溜池を築造 県耕地課の石本技手が基礎調査を遂ぐ

・ 8月18日 野球見物の志賀さん夫妻 高畑の閑居から沸騰の甲子園へ

・ 9月19日 松茸は早く出る 豊作予想の宇智郡

・ 9月22日 奈良八景を復活させる 石黒知事の肝煎りで具体案を研究

・ 9月24日

今年の松茸は 豊作うけあひ 発生を促す最近の気温 安藤氏の研究

松茸研究で鳴る奈良宮林署安藤属は近府県の本年度松茸発生の時期および豊凶程度を、同属の研究にかかる松茸発生の大気温度と地中温度との関係から観測するため、去る二十日から同署管内京都府久世郡大久保村大字八軒屋谷国有林に出張慎重調査して二十三日帰署して語る

おそいほど長く出る

去る二十日ころから室内最低温度は十九度を割り、以後漸次下って松茸発生に好都合となり、山の温度も二十日十度、二十一日十一度、二十二日十一度半といふ概況で、昼夜の温度の差も比較的著るしく、しかも昼夜の移り方が松茸発生に好条件である、この温度の具合は昭和三年の松茸大発生と酷似してをり、たゞ大気温度の下ったのが三年度より四、五日早いたため今後幾分変更があるかも知れぬが、同年度に次ぐ豊作だといふことだけは確実に予測できる、発生時期は本月下旬からで、昭和四年は二十六、七日、五年には二四日から発生したが、発生時期は遅い方が何時までも出ることになり、従って豊作なのです

本県内の松茸山は？

なほ同署管内国有林で松茸の出るので有名なのは

本県では宇智郡五條町附近、小島山、生駒郡矢田村矢田山、同郡東山、奈良市地獄谷および京都府では宇治町折居、綴喜郡井手町大山、久世郡大久保村大字八軒屋谷など

ですすでに同署に松茸払下げを願ひ出て契約済みで、権利者の承諾さへあれば何時からでも採取出来ると

・10月17日

狩に行かうか 見物しようか 行場に迷ひさうな 今明日の遊び場所  
今明両日は休日続きで大和路はいたるところ秋の行楽で賑はふことを予想される  
松茸狩りは・・・北和一带、奈良東山中、矢田山法隆寺、丹波市、桜井、上之郷方面、宇陀郡  
一带、二子山方面、南葛宇智方面、吉野地方など多かるべく  
紅葉は（省略）  
狩猟は・・・・・・どこもかしこも

・10月17日

松茸は 豊作でない 宇智郡地方

・10月11日 神鹿の角伐り 午前十時から

・10月22日 水分神社のししんらん指定に決定

・11月22日 十二月から登山を禁止 三笠山の保護

昭和7年

大阪朝日新聞奈良版昭和7年

・昭和7年1月12日 大阪朝日新聞奈良版

紀和国立公園 指定の運動

・1月14日 三笠山麓に 余興場を開設

花火に力瘤を入れる 十七日夜の山焼き

・1月19日 国立公園候補地 紀和の風物を見に 三浦保健課長がやって来る

斎藤知事の帰来談

・2月3日 三浦保健課長らが けふから視察行脚

・2月27日 紀和国立公園 大峰から熊野を 含むことに両県意見一致

紀和国立公園の指定実現運動は近く斎藤知事と唐沢和歌山県知事が協議のうへ具体的方法を樹てられるが、これに先だち両県で指定区域につき予じめ協定を行っておく必要があり、阪田公園課長は廿五日和歌山に赴き唐沢知事、三部長、関係各課長と懇談を遂げたが、その結果範囲は奈良、和歌山、三重三県に跨り

山岳美として大峯、大台、溪谷美として瀨を含む北山川、十津川および両河川の合流する熊野川並に古座川沿岸地、海洋美として木ノ本、鬼ヶ城、新宮、勝浦、潮岬に至る海岸線一帯

を包含するを適当として意見一致を見た

・昭和7年2月27日 大阪朝日新聞奈良版

枯れ行く桜に 外科手術や施肥 吉野山保勝会が補助申請

吉野山保勝会では名所吉野山桜樹の名老木が経費関係に本づく手入れ不足から、年月と共に枝幹を枯らし衰退してゆくので、今度応急策として左の外科施術並に優良苗木の増植を行ふことになり、このほど県へ相当補助方を申請した

周囲四尺以上の老木中菌類の寄生または害虫の喰入りにより樹枝が腐朽し、著しく樹勢の衰へたもの約六、七十本に対し京都植物病院へ依頼外科施術を施すこと△肥料不足で枯死に瀕する老木百本に対し、適当施肥すること△老樹名木で優良な山桜の種子を本年開花後採取、明春播種すること

なほ同会では吉水院宗信法師の墓所保存施設をも行ふはず

・2月27日 附議事項追加 史蹟調査会

三月四日開会の県史蹟調査委員会附議事項はその後左の諸件を追加した

生駒郡平端村大字額田部北方窯址および同郡富郷村大字三井窯址に関する調査報告△磯城郡三宅村大字石見発掘埴輪土器調査報告△指定天然記念物調査報告

・昭和7年3月6日 大阪朝日新聞奈良版

森野薬園の保存 七万六千余円かけて 明年三月完成さす  
史蹟森野旧薬園に対する管理松山町の国県費補助を得て行ふ保存施設計画具体案はこのほど決定、総経費七万六千百四十円で第一、二、三次計画に分け明年三月末までに完成の予定である、すなはち

第一次——追加指定の石水亭修理、指定地九段五畝歩の買収（各一万円）賽郭祠堂、桃岳庵の修理、宝庫新設その他）△第二次——遺留品整理、道路用地の買収と工事その他（六千二百余円）△第三次——基本金四万円の積立などを行ふ

・3月10日 三笠山麓に桜樹の増植 土留めの一策

・3月11日 鹿寄せを 無料で見せる

春日神社神鹿保護会の奉仕で三、四、五月の毎日曜及び祭日に限り、午後二時から奈良公園飛火野（商品陳列場東南）で奈良名物鹿寄せを行ひ一般遊覧客その他に無料観覧せしめる

\*飛火野の場所については商品陳列場東南とあり、現飛火野であろう。

・3月13日 紀和の国立公園 有力視される 北山の河川美は日本一の折紙 調査特別委員会の状況

・昭和年3月16日

高級室に納まるのは 必ラズ日本人

贅沢さうな外人が安い室に 奈良ホテル泊るお客さん

・昭和7年3月19日 大阪朝日新聞奈良版

観光協会 吉野に設置

吉野山旅館料理飲食等業者では四季通じて吉野遊覧客を吸収すべく、こんど吉野観光協会

を設置した、史蹟名勝探勝の施設改善をはかり、土地発展をはかる計画である

・3月24日 葛の布引瀧溪流に 一尺ほどの山椒魚 桑野委員が調査に行く

・3月30日 奈良の鹿 凡そ千頭 糠煎餅 卅四萬把売れる

・4月10日

奈良公園に ゴルフ場 知事さん候補地探し

大和路の桜花 景気よく咲出す 施設を整へて客を待つ 各地の花名勝

吉野 吉野駅附近の一目千本から中の千本を経て奥の千本まで喉き上るには一ヶ月もかゝるといはれる、

・4月20日 岡部子らの委員一行 けふ大和入り 国立公園候補地調べに 先づ朝日ビルで懇談会

・4月21日 国立公園と決定したら 先づ交通の完備

・昭和7年4月24日

大和の桜 その種類と特徴 久米奈良女高師助教授談

・昭和7年4月24日 大阪朝日新聞奈良版

名木の婚礼 森野旧薬園の花の木

名木の婚礼……松山町にある史蹟指定森野旧薬園内の珍木「花の木」は毎春真紅の花が美しく咲いて土地の人々も愛好しているが、惜しいかな雌性で結実せず遺憾とされていたところ、このほど綴方教授で知られた蘆田恵之助氏が岐阜県下行脚中、同県恵那郡阪本小学校にめぐらしくこの木の受精地帯あるをきいて、早速同校に赴き森野薬園の事情を話して、どうか雄の木を婿入りさせて貰ひたいと頼み込んだところ、同校でも快諾し蘆田氏は月下氷人となってこのほど周り一尺、高さ一丈の木三本を携へて松山町に來り、目出度く婚礼式をあげた、地元では大喜びでモウめったにないこの全国一の花婿にかりそめに粗忽があつてはならぬとの心遣ひから、植樹は岡本県調査委員を煩らはすことになり、町代表者が県と打合せの結果同員は同地に出張停りなく植込んだ



・昭和7年4月23日

値切るなら 一文もいらぬと 市農会側強く出る 神鹿の農産物災害賠償問題  
春日神鹿の農産物災害賠償金年一千円支出取止め懇談のため、廿一日午後市会議室で神鹿

保護会役員関ほか四氏、春日神社高橋祐宜と市農会側鈴木奈良市ほか三氏が会合、保護会側では最近神鹿が喰ひ荒らす被害は著るしく減少しているので一千万の賠償金の必要はないと思ふが、しかし今まで年々支出していた関係から急に全額を取止めるのも、農家に動揺をあたへるから額を減じてある程度の支出はしてもよい、との意向で市農会側では

神鹿の直接の被害は仮りに保護会側の言ふが如く減少したといつても、間接的な被害は計るべからざるものあり、今賠償金の財源がなくなったから支給せぬといふなら一文もいらぬが、値切るといふのは附近農家を侮辱する  
とて結局纏らず、双方の代表者が近く実状を視察して、その上でさらに協議することになった

・5月1日

建長三年奈良に 桜を植樹 従来 of 定説を覆す 古文書春日で発見  
桜を風致木として植樹したのは今を去る三百年前の

・昭和7年5月1日 大阪朝日新聞奈良版

範囲を拡めて指定されるか 紀和国立公園問題 平内務部長帰来談  
国立公園調査委員の藤村男ら一行に同行しさる二十日から十日間にわたり吉野群山、熊野地方候補地視察の道案内を勤めた平内務部長、坂田公園課長は二十九日帰京の一行を見送り、同夜帰来したが各委員調査の結果を打診して交々語る  
各委員は口を揃へ吉野群山の山岳美、北山峡、瀨の溪谷美、紀南の海岸美を激賞し、この三つを揃へると全国的にも稀に見る有力優秀な候補地だとの感慨をもらし、建国史蹟の保存上からも選定の価値あることが説かれていた、たゞ北山川の水電計画については頭をひねられたが、これは唐沢和歌山県知事に考へるところがあるさうで、指定は頗る有望視された、どうもあの空気なら十津川下流本宮出合間が余分に範囲を拡げて指定されるのではないかとまで思はれる、一部に第一回予定危ふしとの説を伝へられたが、それについては藤村男は「委員長がござにいるぢやないか」と一笑され危ぶまれているわけでない旨を語られた

・5月8日 二段歩に亘る 熊谷草・月ヶ瀬で発見

・5月12日

国立公園委員会 議会直後に延期

国立公園委員岡部長景子は十日来市、市内遊覧後同夜大阪を経て九州地方の候補地視察に赴いたが、案内の坂田公園課長に

国立公園選定の特別委員会並に総会は臨時議会前に開会決定の予定だったが延期され

た、多分議会直後電光石火的に開催決定を見ることにならう  
との旨を語ってをり県では斎藤知事がいま一息最後の運動を試みるべく、近く唐沢和歌山  
県知事とともに上京の予定で、日取り打合せ中である

・5月12日 春日奥山 周遊道路に 新コースを加へる 三笠山三重目に新道開設

・5月15日 サツキと熊谷草 指定方申請

・5月20日 (山椒魚調査記事)

・昭和7年5月21日 大阪朝日新聞奈良版

#### 室生寺の石楠花

◇初夏の花の中に異彩を放つ石楠花は弘仁芸術の殿堂といはれる室生寺の境内に清楚な色  
を見せ、賽者はゆくりなくもその芳香に接して讃仰をほしいまゝにしているが、室生のほ  
と春は遅く昨今初夏らしい日の輝きを見せ、「石楠花と室生寺」を語るの相応しさを思  
はせる

◇今の住職荒木良仙師は昭和三年春室生寺に赴任したのであるが、その時寺の記録を調査  
すると、室生寺の境内に石楠谷と称するところのあるを発見した、そこで古老について聞  
いてみると現在の境内にはないが、往古室生寺の境内が東は田口長楽寺、西は大野弥勒寺、  
南は赤埴仏隆寺、北は名張状六寺といふ広大な広さをもっていた時の記録であるから、恐  
らくこれは田口方面にある「石楠ヶ嶽」を指すものであらうとのことに、同師は非常に興  
味を覚えたので、室生寺をして最も相応しい石楠花の名所とすることを計画し爾来桃俣、  
山粕、土屋原、平野、木津、神末、菅野、杉谷、芳野、田口の諸方面の信徒を勧誘して石  
楠花の木の献納を奨励し、弘法大師尊前への花供養として各方面からの浄志により運び来  
るもの実に二万株の多きに達した

◇大きいのでは高さ一丈二、三尺に及び中には一本にして千輪以上の花をもつものがあつ  
た、そこでいよいよ昭和四年春移植したのであるが室生寺の地味が高山地帯の湿気が多く  
高山植物に適しているので発育はよく、また石楠花は霧深きとを好む性質がありいはゆ  
る「宇陀の霧」は室生寺の石楠花の発育を助けたものらしく、中には多生の枯死も見たが  
既に咲いたもの実に一万四千株で室生寺の寺門あたりから奥の院まで石楠花の世界を展開  
している

・昭和7年5月24日 大阪朝日新聞奈良版

#### 芳香を放つ鈴蘭の群落 つぼみを破る

宇陀郡三本松村大字向淵および山辺郡都介野村吐山の両すずらん群落地は昨今開花をはじ  
め、林間に芳香を漂よはせているが、最近県社寺課津田属が同地を視察したところによる

と、繁殖よく地域も昨年より拡大したが、気候の関係で開花が約十日間遅れ月末から来月五日ごろまでが見ごろだと

・昭和7年6月9日 大阪朝日新聞奈良版

九町歩に亘る 吐山の鈴蘭 今やまっ盛り

山辺郡都介野村吐山の鈴蘭地帯は三本松村向淵と同じく天然記念物に指定されたが、宣伝において向淵に先を越された形であまり世に知られないが、その区域は約九町歩面積において向淵に優り交通の便なることも向淵以上である、昨今漸く満開となり芳香を谷間にはなっているが、同地は貝の化石で有名な貝ヶ平の北面にあたり金平の躑躅や香酔山の廢寺址を探り鈴蘭地を訪ねて子規の声に心耳を洗ふのも初夏の一日の清遊として面白い

・昭和7年6月9日 大阪朝日新聞奈良版

大軌が手放せば すぐ県が経営 春日奥山周遊バス

・昭和7年6月9日 大阪朝日新聞奈良版

公園内へ 自動車乗入れ制限

・6月14日 奥山廻遊道路新設に賛成 公園改良諮問会

・6月16日 三笠山新コース 工費一万五千元

・昭和7年6月17日 大阪朝日新聞奈良版

神鹿被害報償 従来通り一千元

・6月19日 三笠山 山麓の芝生 補植に寄附金

・6月26日 大山椒魚 豊原村にも棲息 京阪地方から採集に来る

・6月29日 伯母峰峠から 大台山上へ 自動車専用道路計画

・7月30日 大峰山上で 採薬臨時講習 近畿本草会の企て

・昭和7年8月7日 大阪朝日新聞奈良版

枯死に瀕する 吉野の桜樹 国県費の補助を受けて 今秋十月から手術  
名勝吉野山の枯死に瀕する桜樹の保存については、本年度に国県費の補助をうくる見込み  
が立ったので地元保勝会ではいよいよ今秋十月から回生手術を施すことになったが、最初  
は試験的に三十年生以上でとくに衰退した老名木約五十本につき行ふはず

・ 8月から 地方巡礼連載

・ 8月20日 チャボツメレンゲ 室生山で発見

・ 8月25日 支障なささうな三笠山の 周遊道路 だが自動車には異論

・ 9月3日 春日神鹿角伐り 十月十六、七両日と決定

・ 9月7日 近づく松茸季節 発育振りを調査して 営林署で発表する

・ 9月9日 民有地指定に 林業家反対 国立公園期成運動 大きな脅威を受く

・ 9月10日 大和名物鈴虫 献上の光栄

・ 9月11日 春日神社の つのきり 十月十六、七の両日 例年より派手にやる

・ 9月11日 松茸共同出荷 産地で計画

一雨ごとに松茸シーズンが近づく——県下松茸の産地は吉野、宇陀、宇智郡であるが松茸  
狩客を引くには交通の便がよくないので京阪神市場に出荷することになり、目下各組合で  
計画中であるが、吉野郡下市町、吉野町、宇陀郡神戸村、宇太村などのほか宇智郡北宇智  
村でも十月一日から一ヶ月間統制出荷することになっている

・ 昭和7年9月28日 大阪朝日新聞奈良版

松茸 宇智郡から

宇智郡における主要産物松茸は昨今走り物が三乃至五貫匁程度に毎日大阪市場へ出荷さ  
れ、貫五円位で取引されているが、十月一日から郡内各出荷組合が郡農会によって統制さ  
れ、省線五條駅に集荷、松（コロ）、竹（椀コロ）、梅（半開）、桜（傘開）の四階級に  
選別大阪市場へは石油函、東京市場へは小函詰とし、宇智郡産を表はず統制レッテルを貼  
附輸送することになったが、これが予想は約一万貫である

各地の茸狩り

宇智郡大阿田村では本年も吉野川保勝会大軌電車の後援で大阿田山茸狩の宣伝に着手、十

月五日を山開きとして三十一日まで日曜、祭日、紋日の遊山客には宝さがしの余興があり、懸賞松茸採集者には一等一貫匁入松茸を添貴すると、また北宇智村北宇智山では十日松茸山開きをする、すべて農村会の手で斡旋する

・昭和7年9月28日 大阪朝日新聞奈良版  
萬葉植物園 十月一日開園式

・10月2日 各地より 北倭 △松茸豊作の予想、早くも芽切り始まる、出盛りに三日ごろ

・10月4日 大台ヶ原を探る1 連載

・昭和7年10月6日

吉鉄沿線の松茸山ひらき 日曜祭日は宝さがして 松茸に隠して副券  
宇智、吉野両郡地方今年の松茸は現在の秋日和が続けば先づは豊作と見られているが、吉野鉄道沿線の福神、大阿田の阿田峰、下市の平原山など保勝会及び大軌の後援で昨五日から一せいに松茸山開きを開始、駅毎にポスター、幟等を掲げて秋の味覚をそよっている、本年は何れも入山料共飲食費を加算一人前八十銭の大衆値段で、阿田峰は日曜、祭日には特に宝さがしを挙行、松茸にかくした引換券で景品を出す趣向で宣伝に努めている  
盛りは中旬ごろで九日の日曜などは賑ふと思はれる

今年豊作 生駒郡平群村地方も山開き

松茸の豊作、生駒郡平群村地方から西和一带の山開きは一斉に五日に行はれた、中でも平群谷の小瀬、槻原、乙田、上庄、福貴山の各保勝会が植えない松茸をモットーとして盛んに阪神地方へ宣伝しているが、いずれも大軌信貴生駒電の指定地となり、山値段も協定し一人前八十銭である、また信貴山は各料亭がこれも大軌等の指定の下に松茸山の同値段で茸狩りをさすといふ、本年は豊作でこの一带かけて出る貫数も多大なものともみられる、なほ信貴生駒電では多数団体には大割引をすると

・10月9日

・10月26日 三人組の松茸盗人

二十五日午前十時ごろ生駒郡富雄村大字中小字追分石尾喜三郎方雇人磯野文雄（十六）が松茸を監視中三人連れの男が松茸を窃取しているのを発見、とがめたところ三人は文雄に暴行を加へて逃亡した、生駒署では非常線を張って犯人捜査中、被害者文雄は郡山町上田医師が応急手当中であるが腕および背部に打撲傷あり、午後五時までは意識回復せず重体をつづけているが一命は取留めららしい、犯人は郡山方面より入込んだものとの目星がつき生駒署では郡山署の応援を求めて捜査中

・ 10 月 28 日 （鶯塚発見の記事）

大阪朝日新聞奈良版昭和8年

- ・1月5日 公園疑獄事件
- ・1月7日 三笠山焼 来月十一日举行
- ・1月7日 坂田課長きのふ登庁 検事局の処置を待って 公園課を整備す
- ・1月13日 三笠山焼 初春の行事 疑獄に祟らる 二十二日か紀元節に举行か  
内務部長帰県後決定

・昭和8年1月13日 大阪朝日新聞奈良版

森野旧薬園 建物など新築 松山町が買収管理経営する  
史蹟名所（勝）天然記念物——宇陀郡松山町森野旧薬園——一町歩——は所有者であった同町森野家から松山町へ買収し、同町が管理経営することとなり工費一万余円をもって倉庫兼陳列所、茶室式休憩所、農夫小屋その他附属建物の新築および桃岳庵、祠堂の修理と道路は従来森野家の屋内を通った不便から県道へ直通路の新設など着工中で、竣工は四月下旬の予定で落成後は観覧料を二十銭とするほか東京、大阪方面から保存費一万五千余円の寄附を仰ぐことになっている

・昭和8年1月15日 大阪朝日新聞奈良版

花の吉野山に たゞよふ異臭 けふ全山の桜樹に区民総出で施肥  
吉野山では十五日午後から全山の桜樹の保護策として区民総出一戸一名の割合で約三百名が賦役に出て人糞尿及び油粕の施肥をなすが、舟知町長を始め各区長も下肥汲みに参加、一人当平均五荷として一千五百荷、一万五千貫の施肥はさすがに花の名所の吉野もこの一日は異臭にかき曇るわけである

- ・1月31日 三笠山焼の余興 今年は大奮発 花火にも金額を割き 鹿寄せも行ふ
- ・2月10日 昼は鹿寄せ 夜は花火 三笠山焼の余興

・2月11日 春の風に吹かれて さて何所へ行く 三笠山焼・競馬  
観梅催物・二日つづきの休日

昭和8年2月16日 大阪朝日新聞奈良版

天下の名勝 花の吉野山の 桜樹が老ぼる

保存手入を十分にせよと 文部省も憂慮

天下の名勝花の吉野山の桜樹が俗にいふ嫌地期に入り出したのと夥しい害虫被害で近年著るしく老衰し枯死するものも相当あるので、保勝会では施肥、除草など種々対策を講じてきたが、経費の関係もありどちらかといへば方法が消極的で積極的対策の必要を痛感されていたが、文部省でも

名勝吉野山の桜樹保存については根本的施設方針を立て毎年度継続事業として枯死防

止と樹勢挽回をはからしめよ  
と十五日下村宗教局長から県へ通牒してきた、よって県では保勝会と協議し名老桜の若返り施術、その他具体的な保存大計画を立てることになった

- ・昭和8年3月14日 大阪朝日新聞奈良版  
職権を利用して醜行 贈収賄や横領詐欺 公園課疑獄の全貌 八名にかゝる予審終結  
  
坂田公園課長は不起訴 きのみ言渡し

・3月14日  
三笠山登山四月から解禁

・3月14日  
各地から  
吉野郡 養蚕組合では

・4月1日 鹿の展覧会 県商品陳列所で

・昭和8年4月13日 大阪朝日新聞奈良版  
第二期指定地とし 今秋決定す？ 吉野熊野公立公園区域調査の 田村博士吉野へ

・昭和8年4月13日 大阪朝日新聞奈良版  
花曇りの空の下 厳かに執行 蔵王堂花供会式  
吉野行事中の随一と称せられる蔵王堂花供会式は、吉野路の花に魁けて花曇りの十一日午後二時からいと厳かに執行された、この日竹林院を出た行列は観衆の人垣作る中を警固、金鼓先箱、毛槍、薙刀、鬼、花供世話方、修験者、稚兒、山内寺院、管領興信徒代表の順序で百数十名今日を晴れの装もきらびやかに、約九町余を練りに練ってさながらの吉野絵巻を展開する如く蔵王堂広庭に着、庭儀の後伶楽裡に一同入堂し、読経の前に擾装の阿口ら斧を揮ひ炬を捧げ蘇を提げて、各内陣を三匯すれば堂内に法螺法鼓法磬の音と相和して荘嚴極みなく、次で銅盤に盛られた桜花は恭く仏前に献げられ、一山の僧徒が読経供養をなし、供養終了とともに満州事変戦没者慰霊と在口軍の武運長久を祈る大護摩を厳修、さらに□□の式があつて薄暮終了したが、本行事は十二日も行はれ、両日の投餅数約十五石、多数の信徒はじめ附近から拝観者多数あり賑ひを呈した

・昭和8年4月15日 大阪朝日新聞奈良版

蕾もかたく 人足が少ない 二十日ごろ満開の見込 吉野山のさくら

吉野山はmだ花の蕾も堅いだけに客足も少く、蔵王堂花会式の如き書入れ日もなほ第一日の吉野駅下車客が約五百くらい、二日目はまだそれより落ちて昨年 of 三千余とは比較にならず、全山百余の旅館、料理業者、飲食店、土産物店などは至極閑散であるが、十六日の日曜日ごろからはずっと客足増加の見込みが立ち、既に一、二の旅館は当日の予約で満員となり新しい申込みは一切謝絶している向もあるが、同山では二十日ごろが満開といはれ上奥の両千本にかけて月末まで咲きつぐ見込みである

・4月18日 吉野山を新に 編入の計画

国立公園区域調査に同行した 坂田公園課長談

・5月23日 組合を組織 吉野磨丸太の更正

・5月25日 古代遺物を荒すな 嚴重な取締を要望

・6月4日 公園疑獄公判 いよいよ明後日 検挙から半年振りで開廷 裁かれるのは被告八名

・6月9日 大台登山自動車道 実現期待される 中川技監視察出發

・昭和8年6月13日 大阪朝日新聞奈良版

「いしもちそう」の 大群の密生を發見 大和に少い食虫植物

天理高女植物室ではこのほど奈良電沿線平城村から山田川にいたる間で植物採集中線路から五六町の山林地帯で五、六百坪以上に渉る「いしもち草」=食虫植物=の大群落を發見、足も踏み入れられないほどに密生、時節柄可憐な梅鉢形の白い花が咲き誇っていた、「いしもち草」は「はへとりばな、いしつれぐさ」の別名があり、我が国に自生する食虫植物ではあるがあまり見当らず、大和では殊に少いが偶然こんな大群落を發見したのは京都、奈良地方の植物学研究上に好参考とならう

・昭和8年6月13日 大阪朝日新聞奈良版

繭は七十四円 昨年最高相場の二倍以上 養蚕家も驚く

春蚕は前年より 六分強増収予想 総計四十五万六千二百二十貫 県勸業課の発表

- ・ 6月23日 奈良公園の野猿 仔鹿をなぶり殺す  
獲って樹上から投げつけ 鹿群の一大戦慄！
- ・ 6月25日 観光協会 復活更生す きのふ創立総会開かる
- ・ 7月4日 三本松に珍しい動植物
- ・ 7月3日 詳細に突込んだ 事実審理に入る 公園疑獄公判
- ・ 7月6日 蛙飛行事 吉野山蔵王堂
- ・ 7月21日 史蹟記念物調査委員会 廿四日に開催 出席者の顔触
- ・ 7月22日 大峰山附近 史蹟名勝天然記念物指定へ 来月中旬準備踏査
- ・ 7月23日 散在する禿山の緑林化を計る 第二期荒廢地復旧事業 県の二十ヶ年計画
  
- ・ 8月1日 公私消息 岡本勇治氏 (死去の記事)

・ 8月5日

春日神社へ 御下渡しか 瑞祥の白鹿

・ 8月5日

部落、民有林 造林大計画 十年度から

- ・ 9月14日 神鹿一匹撲殺さる 奈良署へ届出
- ・ 9月14日 角切り行事の日取りきまる 来月十五日と十七日に 余興に福引鹿寄等
- ・ 9月22日 香りも新鮮な秋の生り物 つぎつぎにお目見得
- ・ 10月5日 よる年波に名木も老衰す 興福寺東金堂の花の松

・ 昭和8年10月14日 大阪朝日新聞奈良版

松茸は値上り

本年の松茸は全国的に不作で、目下大阪中央市場は七割まで奈良県産のもので占めているが、漸次安くなるはずの松茸が十二日ごろから値上りをはじめ、十三日大阪中央市場の値